

**2023年度
ダイバーシティ科目
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覧

【発行日：2023/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【A0011】	ジェンダーと法Ⅰ [谷田川 知恵] 春学期授業/Spring	1
【A0012】	ジェンダーと法Ⅱ [谷田川 知恵] 秋学期授業/Fall	3
【A0019】	生命倫理と人権Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	5
【A0020】	生命倫理と人権Ⅱ [洪 賢秀] 秋学期授業/Fall	7
【A0101】	教育法Ⅱ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	8
【A0249】	ジェンダー論Ⅰ [中野 洋恵] 春学期授業/Spring	9
【A0250】	ジェンダー論Ⅱ [梅垣 千尋] 秋学期授業/Fall	11
【A0275】	福祉政策Ⅰ [淵元 初姫] 春学期授業/Spring	12
【A0276】	福祉政策Ⅱ [荒木 千晴] 春学期授業/Spring	13
【A0625】	Global Governance [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	14
【A0717】	国際協力論Ⅰ [志賀 裕朗] 春学期授業/Spring	15
【A0718】	国際協力論Ⅱ [志賀 裕朗] 秋学期授業/Fall	17
【A2981】	比較文化論(1) [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	19
資格関係科目	【A3810】 民俗学Ⅱ [室井 康成] 秋学期授業/Fall	20
【A3810】	民俗学Ⅱ [室井 康成] 秋学期授業/Fall	21
【A3811】	イスラム世界論Ⅰ [松本 隆志] 春学期授業/Spring	22
【A3812】	イスラム世界論Ⅱ [松本 隆志] 秋学期授業/Fall	23
専門教育科目 / Business Administration Courses_GBP 科目 / Global Business Courses	【A5544】 Special Topics in Global Business A [Azusa Ebisuya] 秋学期授業/Fall	24
【A6537】	Race, Class and Gender I: Concepts & Issues [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	25
General Education Courses / 総合教育科目_Global Open Program / グローバルオープン科目	【A6541】 Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	26
システムデザイン学科_専門科目_展開科目	【B2728】 インクルーシブデザイン (2019年度以降入学生) (2021年度開講) [安積 伸、三浦 秀彦] 秋学期前半/Fall(1st half)	27
【C0222】	社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	28
【C0233】	ジェンダー論 [高内 悠貴] 春学期授業/Spring	31
【C0242】	国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	32
【C0244】	宗教と社会 [田中 浩喜] 春学期授業/Spring	33
【C0625】	フランス語アプリケーション [ル・ルー清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring	34
【C0626】	フランス語アプリケーション [ル・ルー清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	35
【C0627】	フランス語アプリケーション [カレンス フィリップ] 春学期授業/Spring	36
【C0628】	フランス語アプリケーション [ル・ルー清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	37
【C0854】	現代美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	38
【C0942】	フランス語圏の文化Ⅰ (思想) [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	40
【C0943】	フランス語圏の文化Ⅱ (芸術) [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	42
【C0947】	北米文化論 (ケベック講座) [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	43
【C0952】	カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会 A) [DANIEL FORTEA MUNOZ] 春学期授業/Spring	44
【C1031】	宗教社会論Ⅱ [田中 浩喜] 秋学期授業/Fall	46
【C1043】	人の移動と国際関係Ⅰ [曾 士才] 秋学期授業/Fall	47
【C1046】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	48
【C2200】	現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	50
【C2201】	現代社会論Ⅱ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	51
【C2202】	現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	52
【C2433】	自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	53
【C2559】	現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	54

【C2560】 現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall.....	56
展開科目 / Disciplinary & Elective Courses_Japan & Sustainability 【C3509】 Social Development and Sustainability 2 [Chuanfei WANG] 春学期授業/Spring	57
展開科目 / Disciplinary & Elective Courses_Environment & Society 【C3605】 Global Society 1 [Kohtaro ITO] 秋学期授業/Fall.....	59
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C7254】 職業選択論Ⅱ [上西 充子] 秋学期授業/Fall	60
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C7258】 産業・組織心理学Ⅱ [坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	61
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C7259】 キャリア開発論 [武石 恵美子] 春学期授業/Spring	62
関連科目 【C7710】 就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- [佐藤 厚、武石 恵美子] 秋学期授業/Fall.	63
基礎科目 / Liberal Arts Courses_言語教育分野 / Language Education_リベラルアーツ科目 / Upper Division Liberal Arts Courses 【E1806】 Intercultural Communication B [石原 紀子] 秋学期授業/Fall	65
基礎科目 / Liberal Arts Courses_言語教育分野 / Language Education_リベラルアーツ科目 / Upper Division Liberal Arts Courses 【E1806】 Intercultural Communication B [石原 紀子] 秋学期授業/Fall	67
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群(英語分野) 【E1806】 Intercultural Communication B [石原 紀子] 秋学期授業/Fall	69
基礎科目 / Liberal Arts Courses_言語教育分野 / Language Education_リベラルアーツ科目 / Upper Division Liberal Arts Courses 【E1809】 Intercultural Communication D [石原 紀子] 春学期授業/Spring.....	71
基礎科目 / Liberal Arts Courses_言語教育分野 / Language Education_リベラルアーツ科目 / Upper Division Liberal Arts Courses 【E1809】 Intercultural Communication D [石原 紀子] 春学期授業/Spring.....	73
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群(英語分野) 【E1809】 Intercultural Communication D [石原 紀子] 春学期授業/Spring	75
【N1116】 国際協力論 [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall.....	77
【N1117】 Community Based Inclusive Development [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	78
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【N1117】 Community Based Inclusive Development 春学期授業/Spring.....	79
【N1172】 Disability and Development in Asia [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall.....	80
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【N1172】 Disability and Development in Asia	81
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】 教養ゼミⅠ [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	82
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】 教養ゼミⅡ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	83
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6131】 クィア・スタディーズ A [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	84
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6138】 異文化コミュニケーション論B [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall.....	86
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6431】 比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring.....	88

LAW200AB

ジェンダーと法 I

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈夕〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第2波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。

2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけではなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は一樣ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。

2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、また、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。

3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業をオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲載する。

1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の7割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方とはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。

2. リアクションペーパー：教員の解説を学んだ後、学習支援システムに非公開で毎回提出する。

3. 議論への貢献：学習支援システムの公開掲示板に意見を投稿し、受講生同士で議論を行い、より良い方策を検討する。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探求する知的好奇心を持っていることが前提となる。

4. レポート：容易に解決法の見つからない重要な問題についてのレポートを、3 - 4 回提出する。

5. 課題へのフィードバック：原則として提出締切後の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー統計から見える日本と世界

2	ジェンダー法の見取り図	ジェンダーと法で何を学ぶのか、全体像の把握
3	ジェンダーをめぐる法の歴史1	欧米を中心とした女性の権利の歴史
4	ジェンダーをめぐる法の歴史2	日本における女性の権利の歴史、天皇制と性差別
5	国連と女性差別撤廃条約	国連憲章、女性差別撤廃条約
6	ポジティブ・アクション（PA）、アファーマティブ・アクション（AA）	事実上の平等を進めるための装置 AA/PA の歴史と種類、効果
7	S O G I（性的指向と性自認）1	伝統的な女性・男性の枠組みにあてはまらない人々（LGBTQ+）の現状
8	S O G I（性的指向と性自認）2	伝統的な女性・男性の枠組みにあてはまらない人々（LGBTQ+）の権利保障
9	男女共同参画社会基本法	基本計画と条約
10	政治分野のジェンダー平等	諸外国の状況、日本の候補者男女均等法
11	家族とジェンダーと法1	多様な家族と現行法
12	家族とジェンダーと法2	民法改正をめぐる問題
13	家族とジェンダーと法3	少子化と家族制度のこれから
14	まとめ	これまでの学びから、性差別が続くのはなぜか、どのような変化が必要かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。 <http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html> 授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望ましい。授業後は、毎回リアクションペーパーを提出すること、そして掲示板での問題提起・議論を可能な範囲で行うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は初回授業で指示する。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば常時利用し、使いこなしてほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献（20%）、コメント（30%）、およびレポート（50%）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れなため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとチカラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一歩、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline (in English)】

We are going to learn issues around gender and law system in Japan and global struggling to achieve gender equality de facto. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we should be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Our topics are not only for women, but also for men and LGBTIQA or other sexual minorities.

【Learning Objectives】

1. To know what gender discrimination is like and how to solve the problems from international perspectives.
2. To make a better argument with respectfulness involving diversity.
3. To reach a solution that is fair and based on facts without gender biases.

【Learning activities outside of classroom】

1. Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after the lecture.
2. Submitting reaction paper after every lecture.
3. Make or join arguments in a forum on the class website.

【Grading Criteria /Policy】

1. In-class contribution(20%): how your participation of arguments among students in a forum on the class website was.
2. Reaction paper on each lecture(30%): how you understood every lecture was.
3. Reports of some important issues (3-4 times required)(50%): how you explained and presented your thought about gender law issues.

LAW200AB

ジェンダーと法Ⅱ

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：※定員制（受講者多数のため 4/20（木）13 時時点の仮登録者のみ履修可とする）

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第 2 波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。

2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけでなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は一樣ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。
2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。
3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業をオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲載する。

1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の 7 割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。

2. リアクションペーパー：教員の解説を学んだ後、学習支援システムに非公開で毎回提出する。

3. 議論への貢献：学習支援システムの公開掲示板に意見を投稿し、受講生同士で議論を行い、より良い方策を検討する。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探索する知的好奇心を持っていることが前提となる。

4. レポート：容易に解決法の見つからない重要な問題についてのレポートを、3 - 4 回提出する。

5. 課題へのフィードバック：原則として提出締切後の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	統計から見える日本と世界のジェンダー平等格差
2	ジェンダー法総論	事実上のジェンダー平等に向けて
3	労働とジェンダーと法 1	均等法ができる前：結婚解雇、老年差別
4	労働とジェンダーと法 2	男女雇用機会均等法
5	労働とジェンダーと法 3	間接差別、アンパイドワーク
6	暴力とジェンダーと法 1	女性に対する暴力（violence against women）の発見
7	暴力とジェンダーと法 2	ドメスティック・ヴァイオレンス（DV）
8	暴力とジェンダーと法 3	デート DV
9	暴力とジェンダーと法 4	性暴力をめぐる神話
10	暴力とジェンダーと法 5	世界的な性暴力法改革
11	暴力とジェンダーと法 6	セクシュアル・ハラスメント、ストーカー、
12	暴力とジェンダーと法 7	買春春、ポルノグラフィー
13	生殖とジェンダーと法	リプロダクティブライツ
14	まとめ	女性に対する暴力と男性被害

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。<http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html> 授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は初回授業で指示する。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば常時利用し、使いこなしてほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献（20%）、コメント（30%）、およびレポート（50%）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れなため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとチカラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一歩、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We are going to learn issues around gender and law system in Japan and global struggling to achieve gender equality de facto. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we should be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Our topics are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities.

【Learning Objectives】

1. To know what gender discrimination is like and how to solve the problems from international perspectives.
2. To make a better argument with respectfulness involving diversity.
3. To reach a solution that is fair and based on facts without gender biases.

【Learning activities outside of classroom】

1. Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after the lecture.
2. Submitting reaction paper after every lecture.
3. Make or join arguments in a forum on the class website.

【Grading Criteria /Policy】

1. In-class contribution(20%): how your participation of arguments among students in a forum on the class website was.
2. Reaction paper on each lecture(30%): how you understood every lecture was.
3. Reports of some important issues (3-4 times required)(50%): how you explained and presented your thought about gender law issues.

LAW200AB

生命倫理と人権 I

編澤 和彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命倫理は、20 世紀中葉の非人道的な人体実験を背景にして、今日の形態へと発展してきました。本授業は、このような歴史的な人権問題を考慮しながら、生命倫理の四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）、三種類の同意概念（インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意）、そして、関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を学びます。その際、授業内容に関連する医療ドラマを視聴し、生命倫理の諸概念や人権問題の理解を深めていきます。なお、本科目は「文化・社会と法コース」にあげられている法的教養を深めるに適した科目です。また「行政・公共政策と法」の各コースにも配置されています。

【到達目標】

- ①生命倫理と人権思想の連関を把握し、日常生活の出来事から倫理的及び法律的問題を見つけることができる。
- ②具体的な事例に基づいて、生命倫理の土台を成す四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）を把握することができる。
- ③インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意という三種類の同意概念、そして、それらに関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、解説動画、授業資料、課題を提供します。課題は主に医療ドラマから出され、受講生はこの視聴覚教材を視聴し、課題に答えてください。課題の提出並びに教員からのフィードバックは、Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	教員の自己紹介、到達目標、授業内容、授業の進め方について説明します。また、スピッツの「ホスピタリズム」研究から人間の生命について考えます。
第 2 回	生命倫理と人権思想の歴史的考察①	生命倫理の成立史（ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート）を解説します。
第 3 回	生命倫理と人権思想の歴史的考察②	ロバート・J・リフトンによるナチズムの研究から、生命倫理と人権、とくに差別、抑圧、暴力の問題について考えます。
第 4 回	終末期医療と患者の人権①	死の概念、患者の自己決定権、インフォームド・コンセント（IC）、パターナリズム、いのちの「終わり」の選択（①セデーション、②自然死、③安楽死、④延命治療）を解説し、それぞれの問題点とそれに関するモラル・ジレンマを明らかにします。

第 5 回	終末期医療と患者の人権②	がん告知に関する法整備、がん告知についての統計、がん告知の問題、終末期患者への対応、死の受容に関する五段階説（エリザベス・キューブラー・ロス）、医療資源の配分などの問題を考えていきます。
第 6 回	終末期医療と患者の人権③	第 4 回と第 5 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 7 回	小児医療と子供の人権①	ホスピタリズムと幼児の能力（ヤヌシュ・コルチャック、内藤寿七郎）、幼児の精神的な病気（スピッツ）、インフォームド・アセント（IA）の概念、親の許諾、患児の賛同、IA の適用例、日本における IA の実施率について考察します。
第 8 回	小児医療と子供の人権②	拒食症と宗教的理由から輸血を拒否する事例を取り上げ、パターナリズムと治療の拒否権について考えます。
第 9 回	小児医療と子供の人権③	第 7 回と第 8 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 10 回	コンピテンスと患者の人権①	判断能力のない患者（生まれながらに判断能力を持ちえない患者と事故や病気で判断能力を失った患者）、リビング・ウィル、成年後見、代理同意とその基準（最高利益と代理判断）及び問題点、臓器移植法改正、家族の範囲について考察します。
第 11 回	コンピテンスと患者の人権②	自律、コンピテンス、人権との関係、及びコンピテンスの臨床基準について説明します。
第 12 回	コンピテンスと患者の人権③	第 11 回と第 12 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 13 回	生命倫理の四原則と人権	自律尊重、仁恵、無危害、正義の諸原則を整理し、それらの原則と人権思想との関連をまとめます。
第 14 回	生命倫理における同意概念と人権	人権との関連でインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意の概念をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：受講生は授業に関連する教科書の該当箇所を読んでおいてください。また、参考書を使って、専門用語の意味等を理解してください（2 時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。そして、授業支援システムを使って、各授業後に出される課題に答えてください。さらに、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをまとめてください（3 時間）。

【テキスト（教科書）】

生命倫理と法編集委員会（編集）『新版 資料集 生命倫理と法』、太陽出版、2860 円、ISBN-10:4884695585

【参考書】

- ①樋口範雄・土屋裕子（編集）『生命倫理と法』、弘文堂、3520 円、ISBN-10:433535343X
- ②小林亜津子著『はじめて学ぶ生命倫理』、ちくまプリマー新書、780 円、ISBN-10:4480688684
- ③トム・L・ピーチャム他著『生命医学倫理』、成文堂、7,560 円、ISBN-10:4792360641

【成績評価の方法と基準】

試験方法：筆記試験、実施時期：授業内試験。各課題 50%、筆記試験 50%の総合評価。筆記試験と毎回の課題は、到達目標に挙げられた以下の基準に従って評価されます。①自分の経験や見聞した知見による例証が、適切に行われているかどうか (40%)。②四原則の内容が、適切に理解され、説明されているかどうか (30%)。③三種類の合意概念が、正しく把握されて、使用されているかどうか (30%)。なお、グループディスカッションで司会 (及び「まとめ」の執筆) を担当した受講生には、授業評価点として 5 点が追加されます。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システム Hoppii にアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用して各自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

NPO 法人ホームケアエクスペーツ協会, 日本生殖医療看護学会 (第 13 回実践セミナー), 文部省 SSH 事業。医療や介護の現場の声を生かしながら、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、生命倫理に即した解決策を考えます。

【Outline (in English)】

Bioethics has evolved from the inhumane human experimentation of the mid-twentieth century to its present-day form. Taking into account these historical human rights issues, this class will study the four principles of bioethics (respect for autonomy, beneficence, nonmaleficence, and justice), the three types of consent concepts (informed consent, informed assent and proxy consent), and related legal provisions (laws, guidelines, and declarations). Students will watch medical dramas related to the course content to deepen their understanding of various concepts of bioethics and human rights issues. This course is suitable for deepening legal education as listed in the "Culture, Society and Law Course. It also belongs to the course "Administration, Public Policy and Law" courses. In the preparations, Students should read the relevant sections of the textbook related to the class. Students should also use reference books to understand the meaning of technical terms, etc. (2 hours). Review: Students should read and review the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). Then, answer the assignments given after each class using the class support system. In addition, summarize your thoughts on the topic, referring to the opinions of other students in the discussion (3 hours). Examination method: Written exam, timing: In-class exam. Overall evaluation: 50% for each assignment and 50% for the written exam. These two elements have the following criteria: (1) Whether or not the student can give appropriate examples based on their own experience and knowledge (40%). (2) Whether the four principles are correctly understood and explained (30%). (3) Whether the three consensus concepts are correctly understood and used (30%). Students who moderate the group discussion (and write the "Summary") will receive an additional 5 points for the class evaluation.

LAW200AB

生命倫理と人権Ⅱ

洪 賢秀

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈タ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学技術の進展により、私たちは、「いのちにどこまで人為的な介入を許すべきか」という難題に直面しています。本授業では、生命倫理をめぐる諸課題について社会的・文化的背景を踏まえながら、各社会が新たに登場した生命科学技術をどのように受容し対応しているのかについて、人権及び法的視点からアプローチしていきます。法律学科のコース制との関係では、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する科目です。

【到達目標】

本授業では、生殖医療技術、遺伝子関連技術、再生医療、移植医療、終末期医療などについて、各社会がどのような規制をもち、どのような議論をしているのか、具体的な事例を検討し、生命倫理に関する基本的情報を習得します。また、他の人との意見交換をとおして、生命倫理に関する多様な立場や価値観への理解を示すとともに、自分の考えを深めていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業内容の理解度を確認し、テーマにおける自分の考えを整理していただくために、ミニレポートを課し提出してもらいます。提出されたミニレポートに対して、個人への回答やコメントが必要な場合には、個別に回答・コメントをお送りします。また、全体として共有したほうがよいと思われる内容については、次の講義の際に、おさらいと補足をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命倫理とは何か	人間の欲望と歴史的教訓としての倫理
第2回	生殖医療技術と倫理	生殖医療技術と「生殖医療民法特例法」と諸課題
第3回	遺伝子関連技術と倫理	遺伝情報と差別
第4回	遺伝子関連技術と倫理	ゲノム研究とゲノム医療
第5回	遺伝子関連技術と倫理	ゲノム編集と遺伝子関連検査
第6回	再生医療と倫理①	クローン技術
第7回	再生医療と倫理②	人体組織と再生医療
第8回	エンハンスメントと倫理	エンハンスメントの問題と背景
第9回	移植医療をめぐる倫理	脳死と臓器移植
第10回	移植医療をめぐる倫理	いのちの贈物の光と影
第11回	移植医療をめぐる倫理	移植ツーリズムにおける諸課題
第12回	死をめぐる倫理①	終末期医療
第13回	死をめぐる倫理②	新型コロナウイルスと終末期
第14回	死をめぐる倫理③	死体の研究利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

準備学習としては、授業内容と関連するテーマについてテキストや参考文献を読んで、授業に臨んでください。毎回のミニレポートの作成は、授業内容の論点整理や理解を確認するための復習の時間となります。

【テキスト（教科書）】

神里 彩子・武藤 香織 編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』（東京大学出版会、2015年、税込2592円）

棚島次郎著、『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書、2020年、税込880円）

【参考書】

『ジュリスト増刊 ケース・スタディ 生命倫理と法』、松原洋子・伊吹友秀『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会）、棚島次郎『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書）

その他、授業において毎回レジュメや資料を配布し、参考文献は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、期末レポート50%と、ミニレポートの課題50%とし、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、提出してもらったミニレポートなどから得られた学生さんからのご質問やご意見について必要に応じてクラス全体で共有し、受講者とのコミュニケーションが活性化できるようにしていきます。

【Outline (in English)】

Advances in the life sciences and technologies are forcing us to confront the difficult question of “How much artificial intervention into life should be permitted?” In this class, drawing on the social and cultural background of a variety of issues surrounding bioethics, we adopt a legal and human rights perspective as we approach the question of how each society accepts and responds to newly emerging life sciences and technologies. With reference to the law school’s course system, this class is affiliated with the following courses: “Courts and the Law,” “Administrative and Public Policy and the Law,” and “Culture, Society, and Law.”

LAW200AB

教育法Ⅱ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈タ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】

子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。

近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。万一オンライン等で授業を行う場合には授業支援システムにて前日までに告知するので、毎回確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第 2 回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原則について
第 3 回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第 4 回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 5 回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 6 回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 7 回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する

第 8 回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 9 回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 10 回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第 11 回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第 12 回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第 13 回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第 14 回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法 2023 年版』北樹出版、2023 年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

万一オンラインにて行う場合に備えて、ZOOM が視聴できる環境。

【その他の重要事項】

その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

POL200AC

ジェンダー論 I

中野 洋恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈夕〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既成の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論 I では、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2020年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」で強調されている政策を理解します。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに、いくつか内容を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	講義の全体像の理解 ジェンダーとは？ ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	家族とジェンダー① 親密な近親者ベースの小さな集団である家族について考える	家族とは何か？ 家族とは何か、家族の変化について説明する。多様性を認める方向の中で夫婦別姓や同性婚に関する動向についても考察する。
第4回	家族とジェンダー②	日本では「男性は外で働き、女性は家事育児」と考えられてきました。これを性別役割分業意識という。ここでは性別役割分業について理解する。 現在、議論が進んでいる「異次元の子育て支援」についても考察する。
第5回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。
第6回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアスを理解する。
第7回	労働とジェンダー①	「ワーク・ライフ・バランス」「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。
第8回	労働とジェンダー②	女管理職に女性が少ないのはどうしてなのか？企業等の意思決定の場に女性が少ない問題点とその要因を明らかにする。
第9回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第10回	女性に対するあらゆる暴力の根絶	女性に対する暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を業来するためのどうすべきかを考える。

第11回 政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。
第12回 国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を基に理解する。
第13回 国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし。その要因も考える。
第14回 授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

- ・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書 2023年）
- ・前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波書店 2019年）
- ・第5次男女共同参画基本計画

http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html

・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>

・女性に対する暴力

若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材

http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html

NWEC 実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」

・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト

http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html

・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>

・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ）

<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>

・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進

<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>

・初等中等教育における男女共同参画

国立女性教育会館 <https://www.nwec.jp/about/publish/kyoin-program.html>

【成績評価の方法と基準】

内容ごとの課題レポートの提出（50%）

筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。ジェンダー平等に向けてどのような社会を構築することが持て目られるのかは様々な意見があります。現状の何が課題となっているのかをデータや理論から丁寧な説明を心がけます。意見交換の場の充実を検討します。

【Outline (in English)】

Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.

Course outline

This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.

Lecture/Exercise (two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

POL200AC

ジェンダー論Ⅱ

梅垣 千尋

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈タ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目です。ジェンダーと政治をめぐる問題を、時間的にも空間的にも射程を広げてとらえ返すことを目的とします。具体的には、おもにイギリス近現代史に焦点を当てながら、ジェンダーの視点からみた政治のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

【到達目標】

- ・現代日本のジェンダーと政治をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
- ・ジェンダーの視点から、議会内外の政治のあり方を複眼的にとらえ、政治の多元性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義が中心となりますが、可能なかぎり視聴覚資料を使用して理解を助けます。授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業でその内容をいくつか取り上げ、全体にむけてフィードバックを行いながらさらなる議論に活かします。また、前半のテーマと後半のテーマのそれぞれの締め括りの回では、全体でディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	〈ジェンダーと政治〉について考える
第2回	歴史とジェンダー（1）	近世君主制とジェンダー
第3回	歴史とジェンダー（2）	近代君主制とジェンダー
第4回	歴史とジェンダー（3）	現代君主制とジェンダー
第5回	歴史とジェンダー（4）	女性君主をめぐる問題
第6回	歴史とジェンダー（5）	日本における女性天皇の可能性
第7回	女性と政治参加（1）	政治の民主化とフェミニズム
第8回	女性と政治参加（2）	女性参政権運動
第9回	女性と政治参加（3）	政治運動とジェンダー
第10回	女性と政治参加（4）	ウーマンリブ運動
第11回	女性と政治参加（5）	労働運動とジェンダー
第12回	女性と政治参加（6）	女性首相の誕生
第13回	女性と政治参加（7）	政治的リーダーシップとジェンダー
第14回	女性と政治参加（8）	日本におけるクオータ制の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、講義予定を勘案しながら、キーワードとなる人物や事柄について調べておくこと。授業後は、講義内容を振り返り、各自の関心に従って参考文献を読み進めること。この講義の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業時にその都度、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 80 %（リアクションペーパーの内容にたいする評価点の合算など）
 - ・レポート 20 %（前半のテーマと後半のテーマのそれぞれに関連して2本分）
- 詳しい評価基準や積算方法については、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの内容を（匿名で）取り上げて紹介したり、授業中にブレインストーミングの時間をもったりすることで、受講者同士での学び合いを促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを利用する予定です。受講にあたっては、学習支援システムを活用できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

ディベートの回では、可能なかぎり多くの受講者に発言を求める予定です。

【Outline (in English)】

COURSE OUTLINE

This course explores a range of historical issues relating to gender and politics with a particular focus on modern British history.

LEARNING OBJECTIVES

By the end of the course, students will be able to gain comparative perspectives on issues surrounding gender and politics, both internationally and historically.

LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM

Students are required to complete weekly assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

GRADING CRITERIA

Grading will be decided based on weekly assignments (80%) and short reports (20%).

POL200AC

福祉政策 I

淵元 初姫

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈タ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は政策・都市・行政の分野に属する科目です。

福祉政策とは何か。そこではどのような政策の選択肢があり得るのか。また、福祉はどのような過程を経て人々のもとに届くのか。本講義では、現代社会において福祉政策がどのように構成され、議論されているのかを検討するための基本的な概念や理論を取り扱います。

【到達目標】

- (1) 福祉政策を論じる上で必要となる基本的な用語や概念を理解する。
- (2) 現代社会における福祉政策の問題がどのように構成されているかを理解する。
- (3) 福祉政策をめぐる制度や仕組みを理解し、支援の実際について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教員による講義のほか、履修人数によっては、学生によるディスカッションの機会を設けることがあります。また、講義の内容について学生の理解を確認するため、リアクション・ペーパーもしくは課題の提出を求めます。これは不定期に合計 3 回ほど実施する予定で、成績評価の対象となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のテーマや到達目標、評価基準等について説明し、福祉政策を学ぶ際の視点について考える。
第 2 回	現代の福祉課題	現代社会において生活を営む上で私たちが直面している福祉問題・課題について考える。
第 3 回	福祉制度の歴史と展開 (1)	福祉国家の形成過程について説明し、社会福祉がいかに制度化されてきたかを学ぶ。
第 4 回	福祉制度の歴史と展開 (2)	福祉国家の変容とポスト福祉国家体制について学ぶ。
第 5 回	社会福祉の原理	なぜ人と人は支え合うのかを問いながら、福祉社会のあり方について検討する。
第 6 回	福祉政策の範囲と体系	広義・中間義・狭義の「社会福祉」を理解し、社会福祉法をはじめとする関連法規の概要を学ぶ。
第 7 回	社会保障制度	年金・医療保健制度をはじめとする社会保険制度のほか、社会扶助制度、社会福祉制度の内容について学ぶ。
第 8 回	日本における社会福祉の特徴	日本型福祉社会の形成過程と特徴を説明し、家族や地域社会、企業がいかなる役割を果たしてきたのかを論じる。

第 9 回	福祉政策の国際比較	福祉国家の類型について学びながら、国際比較の視点と方法を考える。
第 10 回	福祉政策と地方自治	地方自治体におけるこれまでの福祉政策に関する取り組みを学び、今後の課題を考える。
第 11 回	福祉政策の担い手	福祉政策を支える自治体職員、福祉専門職のほか、社会福祉法人や NPO 法人について学び、それらの役割を考える。
第 12 回	社会福祉と市民参加	福祉政策の領域における市民参加の諸形態について学ぶ。
第 13 回	コミュニティにおける社会福祉	地域福祉という考え方とその実践について学び、これからの福祉政策を展望する。
第 14 回	まとめ	授業を振り返り、その内容についてまとめる。また、授業内容に関する筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多様な複数のメディアを通じて、身近な政策課題について関心をもつように心がけてください。皆さんが居住する自治体のホームページなども重要な情報源です。授業中は、重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、教員に質問したり、出席者同士で問いかけあうことも必要です。講義の後は、復習としてその内容について振り返り、知識の定着をはかるとともに、自らの興味や関心と関連付けて考えてみることも大切です。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。授業中にリアクション・ペーパーや課題を指示された場合は、期日までに提出してください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）及び授業内リアクション・ペーパー（30%）により評価します。評価の基準については、授業の内容や課題への取り組みを通してみなさんがどのように考えたのかを重視しています。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The lecture explores how social/welfare policies are constructed and debated in contemporary society. How are policies made? Which voices matter? How policies are delivered? The course will be of interest to those with an interest in how social/welfare policies, which affect our everyday lives, are made by politicians, government officials, citizens, and various other actors. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Written Exam 70%, Reaction paper 30%

POL200AC

福祉政策Ⅱ

荒木 千晴

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈タ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。日本の社会福祉制度は、対象者別に発展してきたが、現在「地域共生社会の実現」に向けて、地域を基盤に、社会福祉の各制度を包括化する方向で展開されている。本授業では福祉政策の展開と論点を理解するとともに、近年の福祉政策を特徴づける包括的支援体制について検討する。また、海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴について理解を深める。

【到達目標】

- ・福祉政策が求められる背景にある社会問題を理解する。
- ・現在の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。
- ・近年における福祉政策の展開を理解する。
- ・福祉政策の内容と実際について、複数のテーマにおける事例をもとに理解する。
- ・海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・福祉政策に関する基礎概念、政策、団体、海外の制度等、毎回中核となる主題をとりあげる。また、テーマに即した具体的な事例等を通じて、多角的・実践的な視点から福祉政策の理解をすすめる。
- ・なお、各回のリアクションを受け止めるため、専用のメールを開講する。このメールに質問、感想などを求め、理解度や疑問に対応しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法等を説明する。
第 2 回	福祉政策の展開	日本における福祉政策の歴史的な展開を理解する。
第 3 回	今日の社会問題と福祉政策	現代における社会問題を概括し、福祉政策に求められている論点について考える。
第 4 回	所得保障に関する福祉政策	所得保障に関する各制度の概要、生活保護、生活困窮者自立支援事業等、政策動向について理解する。
第 5 回	高齢者福祉政策	高齢者福祉に関する福祉政策について、介護保険をはじめ各制度の概要・政策動向を理解する。
第 6 回	障害者福祉政策	障害者福祉政策について、障害者自立支援制度をはじめ制度の概要・地域の支援体制を理解する。
第 7 回	子ども家庭福祉政策	地域において子どもと家庭を支援する福祉政策について、概要・政策動向を理解する。
第 8 回	権利擁護に関する福祉政策	地域における権利擁護体制の推進について、成年後見制度の利用促進・意思決定支援等の政策を例に理解する。

第 9 回	社会的包摂に関する福祉政策	地域共生社会に向け、多文化共生や司法福祉など、社会的包摂の観点が求められる福祉政策の現状について理解する。
第 10 回	地域福祉政策と包括的支援体制	包括的支援体制の構築の基盤となる地域福祉政策の展開、体制について、自治体の取組事例をもとに検討する。
第 11 回	地域福祉計画	地域福祉の計画と実践について、自治体における事例をもとに検討する。
第 12 回	福祉政策を推進する体制	福祉政策を推進するための各機関や人材等について理解し、各機関の連携・協働等今後の体制のあり方を考える。
第 13 回	海外の福祉政策	海外における福祉政策の展開との比較から、日本の福祉政策の特徴を理解する。
第 14 回	授業のまとめ、到達度確認（試験）	第 13 回までの授業を振り返り、授業のまとめを行う。到達度を確認する試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に提供した資料、記録をもとに復習を行うとともに、各回のテーマについて居住する自治体の情報やニュース等、福祉政策の実際に触れ、情報収集を行い、理解を深めることが推奨される。学習支援システムを通じて教材を事前配布した場合には、授業前に読んで検討しておくことが準備学習として求められる。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じて学習支援システムを通じて教材の配布を行う。

【参考書】

- ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「社会福祉の原理と政策」2021 年、中央法規出版
- ・小田 憲三他監修「社会福祉概論 第 5 版: 社会福祉の原理と政策」2021 年、勁草書房
- ・厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」：
<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/>
その他の文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、授業内リアクションペーパー（30 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

This subject belongs to the "policy-oriented" field within the Department of Political Science courses.

Japanese social welfare system has been developed by the target groups. Currently, however, the system is being developed in the direction of making each social welfare system more inclusive, based on the community, toward the "realization of a regional inclusive society".

In this class, we will understand the development and issues of welfare policy and examine the comprehensive support system that characterizes recent welfare policy. In addition, we will deepen our understanding of the characteristics of Japanese welfare policy by comparing it with welfare policies in other countries.

Students will be Assessed by;
Written Exam 70%, Reaction Paper 30%

POL200AD

Global Governance

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The students will learn about the basic elements of global governance, including its meaning, key actors, and various types of global governance. They will learn how global governance has evolved over the years in this increasingly globalized world. The students will also study the dilemmas of global governance and challenges for the future.

【到達目標】

Through this course, the students will gain a deeper understanding of global governance that has evolved with the changing situation of the world. This includes the role of various actors and interaction among them in global governance, and how political, economic, social, and other factors affect the contents and forms of global governance. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Bearing in mind the threats and opportunities that the world is facing, the course will examine global governance in the following areas: international peace and security, economic and social development, human rights, environmental issues, and others. This course will examine the changes that are taking place in the role of nations, international organizations, and non-state actors including the private sector and civil society, as well as the evolving relationship among them in an increasingly globalized and interdependent world. The course will also discuss the gaps and dilemmas of global governance. The course will be conducted in English. The students are expected to read the assigned materials, listen to the lectures, and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to global governance	What is global governance?
2	Actors in global governance	Actors and institutions in global governance
3	Challenges in global governance	Increasing need and process for global governance
4	Varieties of global governance	Various forms of global governance
5	Globalization and global governance	How globalization has affected global governance
6	Foundations of global governance	Foundations of pieces of global governance
7	United Nations (UN)	UN as centerpiece of global governance
8	Global conferences	Global and summit conferences
9	Non-state actors	Role of non-state actors in global governance

10	Networks and social movements	Non-state actors' networks and social movements
11	Role of states	Role of states in global governance
12	Evolution of global governance	Evolution of global governance and its effects
13	Dilemmas of global governance	Innovations in global governance in the twenty-first century
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

Margaret P. Karns and Karen A. Mingst, Kendall W. Stiles, *International Organizations, the Politics and Processes of Global Governance*, Third Edition, Lynne Rienner Publishers, 2015.

【参考書】

・ Thomas G. Weiss and Rorden Wilkinson, *Global Governance Futures*, Routledge, 2022.

・ Thomas G. Weiss, *Global Governance, Why? What? Whither?*, Polity Press, 2013.

・ Thomas G. Weiss and Ramesh Thakur, *Global Governance and the UN, An Unfinished Journey* (United Nations Intellectual History Project Series), Indiana University Press, 2010.

・ 西谷真規子・山田高敬（編著）『新時代のグローバル・ガバナンス論 制度・過程・行為主体』ミネルヴァ書房、2021年

・ 鈴木基史、『グローバル・ガバナンス論講義』、東京大学出版会、2017
・ 笹岡雄一、『新版グローバル・ガバナンスにおける開発と政治文化、国家政治、グローバリゼーション』明石書店、2016年

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note

【その他の重要事項】

As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on various issues related to global governance.

【Outline (in English)】

As written above.

POL100AD

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈タ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ戦争は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確実となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたいと、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	コロナ危機と途上国	新型コロナウイルスのパンデミックは途上国に急速に広がりがつつある。国民の命と生活を守るうえで、途上国政府はどんな課題やジレンマに直面しているかを検討する。

3	コロナ危機と開発援助	国際社会は、パンデミックと戦う途上国を、どのように支援できるだろうか。先進国経済も悪化し、米中の対立が激化するなか、「ポストコロナの世界」における開発援助の将来を考える。
4	途上国が（コロナ危機以前から）直面する課題	途上国が（コロナ危機前から）直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学：「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開：途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。

木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題（40%）と最終試験（60%）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈タ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくて、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して皆に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界の HIV-AIDS 患者の 7 割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では 30 代前半の女性の罹患率が 36 % という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。

3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族は共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990 年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970 年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たとされる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015 年に採択された SDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000 年に策定された MDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000 年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。
11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から 10 年も経っていない 1954 年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。

- | | | |
|----|----------------------|---|
| 12 | 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴② | 日本の ODA は借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。 |
| 13 | 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴③ | 2015 年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本が ODA を通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA 大綱 (1992 年制定、2003 年改訂)」と比較しながら読み解く。 |
| 14 | 授業内容の振り返りと総括 | これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。 |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー (A4 サイズで 2 枚以内) を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する (シラバス通りとは限らない)。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

近藤康太郎、2020 年、『三行で撃つーく善く、生きる> ための文章塾』、CCC メディアハウス。

小坂井敏晶、2017 年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題 (60 %) およびディスカッションへの積極的参加の割合 (40 %) によって成績を評定する予定 (最終試験は行わない) であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自 PC 持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論 I」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」(楽に単位が取れる科目) ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈夕〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的現象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。

授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第2回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第3回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えるためのディスカッション①）
第4回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第5回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第6回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第7回	アメリカの愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第8回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えるためのディスカッション②）
第9回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第10回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第11回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第12回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第13回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えるためのディスカッション③）
第14回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。(2時間)
- ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する現象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。(1時間)
- ・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。(1時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

- 佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996年）
 アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018年）
 ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017年）

【成績評価の方法と基準】

- 授業内での課題および授業への貢献度 30 %
 グループ・プレゼンテーション 30 %
 授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。

履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (30%)
- 2) Group presentation (30%)
- 3) Final exam (40%)

民俗学Ⅱ

室井 康成

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約1600ヶ所存在する。場合によっては1000年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、後期の対象ともなるが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探求する。

【到達目標】

過去に起きた戦争の死者をめぐる扱いは、時に国際問題へと発展することもある。そうした場合、直近の戦争の事例がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身に着けることで、日本文化の正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第2回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第3回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第4回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第5回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第6回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（1）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第7回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（2）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第8回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（1）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第9回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（2）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第10回	関ヶ原の戦いの戦死塚（1）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第11回	関ヶ原の戦いの戦死塚（2）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第12回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争（とくに鳥羽伏見の戦い）の事例を検討します。
第13回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、積極的に調べる。また授業外の学習は、テキストの通読（2時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円（税別）

【参考書】

テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100%）。ただし、終講の3～4回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上レポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course outline
in japan, there are about 1,600 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.
・ Learning Objectives
Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.
・ Learning activities outside of classroom
Review resumes and read references.
・ Grading Criteria /Policy
Written exam on the last day of the lecture

CUA200BA

民俗学Ⅱ

室井 康成

授業コード：A3810 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約1600ヶ所存在する。場合によっては1000年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、後期の対象ともなるが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探求する。

【到達目標】

過去に起きた戦争の死者をめぐる扱いは、時に国際問題へと発展することもある。そうした場合、直近の戦争の事例がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身に着けることで、日本文化の正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第2回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第3回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第4回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第5回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第6回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（1）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第7回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（2）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第8回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（1）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第9回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（2）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第10回	関ヶ原の戦いの戦死塚（1）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第11回	関ヶ原の戦いの戦死塚（2）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第12回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争（とくに鳥羽伏見の戦い）の事例を検討します。
第13回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、積極的に調べる。また授業外の学習は、テキストの通読（2時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円（税別）

【参考書】

テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100%）。ただし、終講の3～4回目の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上レポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course outline
in japan, there are about 1,600 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.

・ Learning Objectives

Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.

・ Learning activities outside of classroom

Review resumes and read references.

・ Grading Criteria /Policy

Written exam on the last day of the lecture

HIS200BA

イスラム世界論 I

松本 隆志

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラムという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラムという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考えるための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせない、イスラム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラムの基礎的知識について、後半部では、そのイスラムが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。

この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生のペーパーの作成・提出から成る。毎回のペーパーについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。ペーパーの作成には講義後半の20～30分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出のペーパーについてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「イスラム世界」とは何か？
第2回	聖典『クルアーン』の世界	イスラムにおける『クルアーン』とアラビア語の重要性について
第3回	イスラムの教義	六信五行などイスラムの基本的な教義について
第4回	イスラムの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラムに共通する一神教的世界観・宗教観
第5回	イスラムの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラム共同体の拡大
第6回	イスラム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラム共同体の変質
第7回	イスラム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第8回	イスラム神秘主義と聖者	イスラムの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第9回	西方のイスラム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラム
第10回	イスラムとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第11回	モンゴルとイスラム	アッバース朝の滅亡とその影響
第12回	20世紀のイスラム①	第1次世界大戦後の国際社会とイスラム
第13回	20世紀のイスラム②	第2次世界大戦後の国際社会とイスラム
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みるのが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
 佐藤次高『イスラム世界の興隆』中公文庫、2008
 佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラム』講談社現代新書、1993
 鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
 その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するペーパー（40%）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートにおいて、もっと図像等でイメージを示してほしいとの声がありました。特に地図については必要性が高いと考えられるので、できるだけ授業内で示していきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自PCやスマホ等を用意してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.

【Learning Objectives】

Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)

Students are allowed to look at the materials in the exam.

The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA

イスラム世界論Ⅱ

松本 隆志

授業コード：A3812 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラム世界では近代化（=西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラムをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もおこなわれている。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラムの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラム認識を相対化する視座を提供することを目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラム、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせないイスラム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえたペーパーの作成・提出から成る。毎回のペーパーについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出のペーパーについてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラムの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンなど
第3回	イスラムの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラム的な慣習
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネス
第5回	イスラムとジェンダー	イスラムにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観の関係
第6回	日本におけるイスラム	在日・滞日ムスリムコミュニティ
第7回	スンナ派とシーア派	イスラムの二大派閥の概要と歴史的背景
第8回	イスラム法学	イスラム法学の歴史的背景と現代での役割
第9回	スーフイズム	スーフイズム（イスラム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割
第10回	イスラムと奴隷	前近代イスラム社会における「奴隷」のあり方
第11回	イスラムの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラム特有の経済倫理
第12回	イスラム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状
第13回	現代の中東情勢	近現代史の文脈における「イスラム国」の経緯
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

小杉泰、江川ひかり編、『イスラム：社会生活・思想・歴史』、新曜社、2006年。
小杉泰ほか編、『大学生・社会人のためのイスラム講座』、ナカニシヤ出版、2018年。
菊地達也編著、『図説イスラム教の歴史』、河出書房新社、2017年。
その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するペーパー（40%）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業のアンケートにおいて、授業資料の記述が時に簡素にすぎるとの指摘がありました。それを踏まえ、受講者がノートを取りつつ講義に耳を傾けることのできる、適切な塩梅を探っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自PCやスマホ等を用意して、そちらで授業資料を閲覧してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.

【Learning Objectives】

This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Termend examination: 60%, Short reports : 40%

MAN100FB-A5544

Special Topics in Global Business A

Azusa Ebisuya

Term：秋学期授業/Fall | Credit(s)：2 | Day/Period：火 2/Tue.2 | Campus：市ヶ谷 / Ichigaya | Grade：1～4

Notes：

その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【Outline and objectives】

This course will provide you with a simulation to plan a product which can attract international customers, think about best method of marketing it, and suggest the effective promotion method through working with your international team members. This provision will surely benefit you when you start working after your graduation.

【Goal】

Through the interactive learning experiences, you are expected to understand how to collaborate with team members effectively, generate original and meaningful ideas, design an attractive product, and promote it successfully.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-2" and "DP3" diploma policies and fairly related to the "DP4" policy.

【Method(s)】

The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks.

You will have a sheet to submit at some classes and two team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.

Feedback on class assignments will be given through the Hosei University Course Management Support System (Hoppii).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction to the course	<ul style="list-style-type: none"> Course overview How to benefit from the simulation classes
Week 2	Understanding team collaboration	<ul style="list-style-type: none"> What is team? Expected performance of successful teams
Week 3	Team making and building up	<ul style="list-style-type: none"> Team building-up activity Team development
Week 4	Product conceptualization	<ul style="list-style-type: none"> Idea generation Idea screening Concept development
Week 5	Marketing research (1)	<ul style="list-style-type: none"> Idea screening SWOT analysis Persona
Week 6	Marketing research (2)	<ul style="list-style-type: none"> Questionnaire preparation Survey methods
Week 7	Preparation for mid-course presentation	<ul style="list-style-type: none"> Data preparation Discover, detain, distill, document, and deliver
Week 8	Mid-course presentation and review	<ul style="list-style-type: none"> Initial team presentation Review and discussion
Week 9	Product design (1)	<ul style="list-style-type: none"> Product name Original logo
Week 10	Product design (2)	<ul style="list-style-type: none"> Detailed designing Attractive design
Week 11	Promotion (1)	<ul style="list-style-type: none"> Promotion strategies Differences between advertisement and promotion
Week 12	Promotion (2)	<ul style="list-style-type: none"> How to promote your product in a cost-free way? SNS as a promotion tool
Week 13	Final team meeting and interview	<ul style="list-style-type: none"> Preparation of the final team presentation Interview on team collaboration
Week 14	Course-ending presentations	<ul style="list-style-type: none"> Final team presentation Review and discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The students are expected to read the materials for each class beforehand and prepare for team-discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Slides and additional reading materials will be provided through Hoppii (Hosei portal site).

【References】

Supplementary reading materials and/or websites will be shared through Hoppii (Hosei portal site).

【Grading criteria】

Participation in discussions: 20%

Sheet submission: 30%

Contribution to the mid-course team presentation: 15%

Contribution to the course-ending team presentation: 15%

Essay: 20%

【Changes following student comments】

To enhance the group work, the project theme will be discussed and decided with the students during the initial class.

【Equipment student needs to prepare】

We'll use Hoppii (Hosei portal site) for sharing reading materials and handouts, and submitting papers.

【Prerequisite】

None

【Upon threat level change】

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

SOC200ZA

Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈グ〉〈ダ〉〈未〉

【Outline and objectives】

This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】

Through lectures, discussion and written assignments, students will learn concepts and theories to analyze how race, class, gender and sexuality affect individuals and society. They will learn to apply these analytical tools and knowledge to form critical opinions on current issues related to various bases of inequalities. Students will acquire skills in critical thinking, analysis and writing that can be applied in other academic fields as well as future careers.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: “Inequality”	What do we mean by inequality?
3	Foundation: “Social Class”	How do Marx and Weber conceptualize social class?
4	Social Class in Japan	What does social stratification in Japan look like?
5	Foundation: “Race and Ethnicity”	What are the main theoretical approaches to race and ethnicity?
6	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
7	Defining Japaneseness	Film viewing: “Hafu: The Mixed-Race Experience in Japan”
8	Foundation: “Gender”	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: “Sexuality”	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexuality Inequality in the Labor Market	What does labor market discrimination based on sexual orientation look like?
12	Foundation: “Intersectionality”	What is intersectionality?
13	Practicing Intersectionality in Sociological Research	What does it mean for sociologists to practice intersectionality as a theoretical and methodological approach to inequality?
14	Review & Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further references may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 10%
Discussion facilitation: 20%
Weekly reading responses: 40%
Final paper: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Others】

Students are strongly encouraged to take Race, Class and Gender II after completing Race, Class, Gender I. Students who have passed Race, Class and Gender I will be given admission priority to the seminar “Intersectionality: Multiple Inequalities.”

【Prerequisite】

Students who intend to enroll in this course are expected to have passed “Introduction to Sociology.”

SOC300ZA

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 1/Thu.1 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya
 毎年・隔年： | 科目主催学部：GIS
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【到達目標】

A major goal is to develop students' sensitivity towards issues of inequality and skills in social analysis and critical thinking. By exploring social issues in an international and global context, students will learn to see how any global issue is multidimensional, and specifically, how inequalities are complex and constituted by the interconnection of race, class, gender, sexuality, and other bases of inequality.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【授業の進め方と方法】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction
2	Theoretical Understanding of Race, Class, and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	The Social Construction of Sperm	How does science construct a romance based on stereotypical male-female roles?
4	Female Disadvantage in Infant/Child Mortality	Why does gender imbalance in infant mortality occur?
5	Race and Queer Family Formation	How does race and sexuality intersect in the context of surrogacy?
6	Transnational Adoption	Film viewing: "First Person Plural"
7	Domestic Helpers	How do gender and migration intersect?
8	Diversity Policy in Global Companies	How is diversity policy in global companies localized?
9	Global Economy of Desire	How do race, sex, and romance intersect in the global economy of desire?
10	War and Violence	What is the "comfort women" issue?
11	Human Trafficking and Sex Work I	What is sex work? What is the difference between human trafficking and sex work?
12	Human Trafficking and Sex Work II	Who are migrant sex workers? What are some issues faced by them?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for final paper
14	Review & Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【参考書】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 10%
 Discussion facilitation: 20%
 Weekly reading responses: 40%
 Final paper: 30%

【学生の意見等からの気づき】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【学生が準備すべき機器他】

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

DES300ND

インクルーシブデザイン（2019年度以降入学生）（2021年度開講）

安積 伸、三浦 秀彦

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について実践演習を通して学びます。
世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった、最大ボリュームゾーンの利用者をターゲットとすることが多く、それ以外は少数ユーザーあるいは極端なユーザーとして量産品のターゲットから排除される傾向がありました。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれ、そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる普遍的な問題といえるでしょう。これまで極端なユーザーとして切り離されていた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに引き、エスノグラフィカルな手法で生活で直面する不具合を観察し、考察、提案、試作、改良、の全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

【到達目標】

本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人をパートナーに引き、インクルーシブなデザインプロセスを行いながら、その人に最適化された日常生活を支える機器を開発する。
また、開発プロセスをビデオ撮影し、プロジェクトの始動から完成までのドキュメント映像作品を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、3～4人のグループワークで行う。
各班、デザインを行う対象として具体的な人物を一名、プロジェクトのパートナー（リードユーザー）として招待し、そのパートナーの抱える日常的な問題を観察・調査の中から精査し、問題解決を図るためのデザイン提案を試作、パートナーにフィードバックをもらいながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。
また一方で、この一連のプロセスをビデオに収め、調査-問題定義-解決方の考案-試作-フィードバック-改良-完成、という流れをもったビデオ作品として仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表 問題抽出	生活観察・インタビュー等 アイデア検討 チュートリアル
3	問題定義	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
4	第一試作テスト結果発表 問題定義の強化 改良案検討	第一試作 テスト・ビデオレポート 発表 改良案検討 チュートリアル
5	第二試作テスト結果発表 改良案検討	第二試作 テスト・ビデオレポート 発表 最終試作検討・制作 チュートリアル
6	最終試作テスト結果発表 改良案検討	最終試作 テスト・フィードバック ビデオレポート 発表 最終発表のための映像検討 チュートリアル
7	最終作品発表	ビデオ上映とデモンストレーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。
授業時間外に調査・試作・検証等を行い、翌週その様子を映像で発表してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「インクルーシブデザイン」という発想 ジュリア・カセム(著)、平井康之(監修) ホートン・秋穂(翻訳) フィルムアート社

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出作品 70点、制作プロセスの評価を 30点とします。
総合点が90点以上を S とし、
89～87点を A+、86～83点を A、82～80点を A-
79～77点を B+、76～73点を B、72～70点を B-
69～67点を C+、66～63点を C、62～60点を C-
60点未満を D とする。
最終作品が未提出な者は評価外とします。

【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフトを各自の PC に入れ、習熟しておくこと。
また、ビデオ映像を撮りためておく大容量の外付 HDD を準備する事が望ましい。

【その他の重要事項】

この授業は主に対面形式で行う。
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】

This project-based learning program focuses on the theme of Inclusive Design. Most mass-produced products are designed to focus on non-handicapped adults to maximize economic efficiency, however the experience of other users such as the older generation, young children and people with disabilities are often not considered enough. In this project, actual users of these categories are invited to help us find the difficulties they face, and students will develop problem-solving concepts through an ethnographic approach and design actual products for optimal results.

ART200GA

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、みなさんが普段接する機会の少ない新しい表現の世界についての見方や考え方のきっかけとなる入門的な内容の講義となります。特に、21 世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。また、演劇などのパフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界に関する様々な事例を参照し、社会と芸術との接点やその関係性について学びます。

「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」の 2 つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

第一部

「近現代の芸術史と理論」では、芸術について学ぶ上での基礎となる 18 世紀から 21 世紀の近現代の芸術の歴史と理論について学びます。

第二部

「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21 世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

過去から現在に至る美術史と現代社会と美術に関する身近な事例を紹介していきます。美術史の営みを理解すること、私たちの周辺にある身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらおうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PCでの学習を推奨します。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンクを掲載する。
2. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Form）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおく」と回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 - 60 分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。シラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	社会と美術について 講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第 2 回	近現代美術の歴史と理論 1 近代美術の誕生（古典主義、ロマン派、写実主義、印象派）	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が落とされました。その頃に起こった古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派の芸術は、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では近代社会の変化を参照しながら、これらの芸術運動について学んでいきます。
第 3 回	近現代美術の歴史と理論 2 アバンギャルドの時代 I（フォービズム、表現主義、キュビズム）	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の 20 世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。
第 4 回	近現代美術の歴史と理論 3 アバンギャルドの時代 II（未来派、ダダイズム シュルレアリスム、ロシア構成主義、バウハウス）	ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。この時代には現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるようなアイデアが登場します。
第 5 回	ワークショップ 1 遠近法	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代 I、アバンギャルドの時代 II の講義内容の確認をします。
第 6 回	近現代美術の歴史と理論 4 戦後アメリカ美術（抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート）	第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテポーベラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第 7 回	近現代美術の歴史と理論 5 1960 年代 市民運動と新しい動向（ミニマル、コンセプチュアルアート、ハプニング、パフォーマンスアート）	1960 年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSD を使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。

- 第 8 回 近現代美術の歴史と理論 6
多文化の時代（ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート）
- 第 9 回 ワークショップ 2
新しい時代の芸術表現
- 第 10 回 現代社会の課題と美術 1
政治への課題
- 第 11 回 現代社会の課題と美術 2
ジェンダーとアート
- 第 12 回 現代社会の課題と美術 3
環境問題と美術
- 第 13 回 現代社会の課題と美術 4
感染症パンデミックの時代
- 第 14 回 ワークショップ 3
現代社会と芸術表現

1980 年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義について学びます。また、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist /リレーショナルアート）についての理解を深めます。21 世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に介入する芸術運動が盛んになっています。

戦後アメリカ美術、60 年代 / 市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。

第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることとなります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争など、プロパガンダ、社会主義リアリズム、戦時中から現在までの文化政策の変化など政治課題と美術について学びます。

社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。私たちは古くから自然を観察して芸術作品の主題としてきました。また自然主義の考え方やランドアートの試みなど、自然から多くのヒントを得ています。近年、地球の温暖化などの環境問題を身近な出来事と捉え始めています。アートを起点とした環境問題へのアプローチを考察します。

2020 年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症拡大の中で生活をしています。私たちにとってパンデミックは現在最も関心のあるテーマですが、過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。

14 回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019 年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020 年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016 年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.

2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

GDR200GA

ジェンダー論

高内 悠貴

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈G〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーとセクシュアリティは重要な視点です。この授業では、アメリカの歴史を具体例として、いかに法律や医療、宗教、科学において性まつわる言説が形成されたのか？ それに対して普通の人たちは性をどのように理解、経験していたのか？ いかに人種や階級などの考え方が、性まつわる言説と絡み合ってきたのだろうか？ といった問いを考察していきます。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 一次資料の読解を通じ、批判的な思考力と読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

HOPPII（授業支援システム）で授業を進めていきます。

●受講を希望する人は4月7日（金）までにHOPPIIに登録してください。受講希望者が多数の場合は抽選を行います。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●HOPPIIの「教材」にアップロードされた授業録画、レジュメ、参考資料、文献をダウンロードして学習してください。

●HOPPIIの「テスト/アンケート」にアップロードされた問いについて、序・本論・結論がある文章のリアクション・ペーパーを書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出をしてください。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー、セクシュアリティなどキー概念を理解する。
2	ジェンダー史の登場	①フェミニズム運動の歴史を概観する。 ②フェミニズムと連動しながら登場したジェンダー、セクシュアリティの歴史という領域の問題意識を理解する。
3	北米入植とセクシュアリティ	①ヨーロッパ人の北米入植の歴史をジェンダーとセクシュアリティの観点から考える。 ②ジェンダー、セクシュアリティの言説の形成における宗教の役割を考える。
4	奴隷制度におけるジェンダー	①北米の奴隷制度の歴史をジェンダーとセクシュアリティの観点から考える。 ②奴隷制度の歴史と人種差別が、いかにジェンダーとセクシュアリティの言説に支えられていたかを理解する。
5	結婚と国家	①19世紀アメリカの結婚のあり方とそこでの女性の地位を概観する。 ②国家制度の一部として結婚制度を位置付けて理解する。
6	移民行政とセクシュアリティ	①アメリカの移民法と移民制度の歴史をジェンダー、セクシュアリティの観点から概観する。 ②いかに国家による望ましい移民の選別が、ジェンダー、セクシュアリティの言説に支えられていたかを理解する。
7	避妊と優生学	①20世紀に広がった避妊や家族計画の歴史を、ジェンダーと人種の交差の観点から概観する。 ②優生学というイデオロギーの歴史とその遺産を理解する。

8	ゲイ・アイデンティティの起源	①近代的なゲイ・アイデンティティが登場した歴史的背景を概観する。 ②科学や医療の言説がいかに人々の振る舞いやアイデンティティを形成してきたかを理解する。
9	ホモファイル運動の誕生	①アメリカの最初のゲイの権利運動であるホモファイル運動の歴史を概観する。 ②性まつわる権利運動がいかに冷戦後のアメリカの政治的・社会的背景から生じたかを理解する。
10	公民権運動とジェンダー	①黒人女性の活動家に着目し、公民権運動の歴史をジェンダーとセクシュアリティの視点から概観する。 ②人種とジェンダーの交差した地点で経験される抑圧や支配のあり方について、黒人女性フェミニズムがどのように批評してきたかを知る。
11	ストーンウォール以降のゲイ解放運動	①1969年のストーンウォール事件以降に広がったゲイ解放運動の歴史と特徴を概観する。 ②ゲイ解放運動に影響を与えた1960年代の社会運動の横のつながりを知る。
12	トランスジェンダーの権利	①トランスジェンダーと呼ばれる人々の歴史を概観する。 ②トランスジェンダーの権利運動と、フェミニズムやゲイ解放運動との関係を考察する。
13	同性婚以降のアメリカ	これまで学んできた歴史的背景を踏まえ、21世紀のアメリカのジェンダーや性にまつわる社会問題にどんなものがあるか、概観する。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

遠藤泰生、小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2023年。

カイラ・シュラー著、飯野由里子監訳、川副智子訳『ホワイト・フェミニズムを解体する』明石書店、2023年。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40%

期末レポート 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業録画をもっと見やすいものにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器ならびにインターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

●受講を希望する人は4月7日（金）までにHOPPIIに登録してください。受講希望者が多数の場合は抽選を行います。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

This course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It uses US history as an example to ask questions such as: How have laws, medicine, religion, and science shaped the discourse of gender and sexuality? How have ordinary people understood their own gender and sexuality? How have the ideas of race and class intersected with the discourse of gender and sexuality?

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire critical thinking and reading skills through reading primary sources.

Students will be expected to 1) check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.

Final grades will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

HUM200GA

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合是对面を実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で授業を行う。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

■履修者人数の確認：初回授業後、履修希望人数を把握し、万が一教室定員を超える場合は1-2年生を優先する形で抽選を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション—国際文化協力とは—	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトウェアについて考える
11	国際協力と想像力—期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・最初の授業で具体的に指示する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関連している。各自入手すること。

松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力—イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点 50%、期末レポート 50%
- ・授業後課題は毎回設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褃が合わない）
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

- ・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
- ・毎回グループ討議と発表を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

- ・法政大学の教育活動における行動方針レベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業を行うため、パソコン及び動画を視聴できる程度のネット環境を整えること
- ・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】

NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to;

- 1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
- 2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
- 3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
- 4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA

宗教と社会

田中 浩喜

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教に関する知識は、現代社会を生きるうえで必要不可欠です。この授業では、世俗化、ポスト世俗化、情報化、国際化、政治、カルトなどの観点から、宗教と社会の関係を体系的に学習します。宗教と社会に関する学問的な視座を身につけることで、世界の文化や価値観をよりよく理解するだけでなく、現代の世界が直面しているさまざまな課題について、主体的に思考できるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようにする。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 受講を希望する人は4月7日（金）までに HOPPII に登録してください。200名を超える場合は抽選を行います。4月10日（月）に抽選結果を発表します。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
- レジュメ、参考資料、文献は、HOPPII の「教材」からダウンロードしてください。
- 毎回提出するリアクション・ペーパーは、HOPPII の「テスト/アンケート」にアップロードされた問いに関して、序・本論・結論がある文章を書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出してください。
- 提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	なぜいま宗教なのか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教へのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのように体系化されていったかを検討する。
3	宗教社会学の諸理論	宗教社会学の基礎的な知識や理論を学び、宗教と社会についての事例を学問的に分析する視座を養う。
4	宗教と日本社会	日本社会における宗教のあり方について、初詣や結婚式などの儀礼、無宗教の増加などの事例を取り上げながら理解を深める。
5	宗教と世俗社会	世俗化に関する宗教社会学の理論を学んだあと、近代の西洋と日本における宗教のあり方について事例を交えて検討する。
6	宗教とポスト世俗社会	ポスト世俗化に関する宗教社会学の理論を学んだあと、現代の西洋と日本における宗教のあり方について事例を交えて検討する。
7	宗教と情報社会	世俗化とポスト世俗化に関する議論を踏まえ、アニメやマンガなどのポップカルチャーを事例に、情報化の観点から現代宗教のあり方を考える。
8	宗教とグローバル社会	世俗化とポスト世俗化に関する議論を踏まえ、宗教の海外布教を事例に、グローバル化の観点から現代宗教のあり方を考える。
9	宗教と政治：戦後日本編	戦後日本の政教関係の歴史を学ぶことで、日本社会における「政教分離」の意味と変化について検討する。

10	宗教と政治：フランス編	フランスの政教関係の歴史を学ぶことで、フランス社会における「ライシテ」の意味と変化について検討する。
11	宗教と政治：アメリカ編	アメリカの政教関係の歴史を学ぶことで、アメリカ社会における「良心の自由」の意味と変化について検討する。
12	カルト問題を考える	現代におけるカルト問題について、基礎的な知識を身につけるとともに、宗教社会学の視座を培う。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。
なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 伊原本大祐、竹内綱史、古荘匡義編『3STEP シリーズ 宗教学』（昭和堂、2023年）。
- 井上順孝『宗教学を学ぶ人のために』（ミネルヴァ書房、2016年）。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教学』（ミネルヴァ書房、2007年）。
- 望月哲也『社会理論としての宗教学』（北樹出版、2009年）。
- 棚次正和、山中弘編『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島蘭進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代のカテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー	40%
期末レポート	60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし。

【その他の重要事項】

- 受講を希望する人は4月7日（金）までに HOPPII に登録してください。
- 200名を超える場合は抽選を行います。4月10日（月）に抽選結果を発表します。
- 第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
- 7月7日（金）の授業は休講とし、別日に補講を実施します。

【Outline (in English)】

The course explores the relationship between religions and societies by taking up issues ranging from secularization, post-secular, informatization, globalization, to "cult" so that students can acquire an academic perspective on these topics and deepen their reflections on various issues related to religions.

By the end of the course, students are expected to be able to:
1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.

Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

LANf300GA

フランス語アプリケーション

ル・ルー清野 ブレンダン

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈タ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage en dehors des cours grâce aux compléments proposés.

Enfin, les contenus proposés sont très variés et permettent de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので、そのつもりでいて下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel et des participants Organisation et calendrier de la classe.
2	Unité 3 L1 Unis pour la vie?	Le plus-que-parfait Les liens de famille Raconter un souvenir
3	Unité 3 L2 Question de génération	Participe passé Génération et éducation
4	Unité 3 L3 Des amis pour toujours	Discours indirect au présent Les relations humaines
5	Unité 3 L4 Se retrouver et se séparer	Rencontres, désaccords, disputes
6	Unité 4 L1 Fait maison	Hypothèse Les loisirs créatifs
7	Unité 4 L2 Mon art de vivre	Le conditionnel présent et l'expression du souhait

8	Unité 4 L3 Action!	Il faut que + subjonctif Les sports extrêmes
9	Unité 4 L4 C'est pour vous?	Le sport Donner des conseils
10	Unité 5 L1 Sur les bancs de la fac	La mise en relief Les études
11	Unité 5 L2 Ce job est pour moi	Adverbes et passé Le travail
12	Unité 5 L3 Motivés!	Le travail: les conditions de travail
13	Unité 5 L4 Vous êtes convaincu?	Se présenter dans le cadre professionnel
14	Bilan	Projet Entraînement au DELF B1

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ODYSSÉE, Niveau B1 ; A. Bredelet, Bruno Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International
ISBN : 978-2090355802

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

・宿題、ミニ発表、その他の小テスト:約 30 %

・リーディングマラソン (フランス語多読):約 20 %

・作文:約 25 %

・出席点:約 25%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり、遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・ Homework, short tests and presentations: app.30 %

・ "Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %

・ Essays: app.25 %

・ Attendance: app.25%。

LANf300GA

フランス語アプリケーション

ル・ルー清野 ブレンダン

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈タ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage en dehors des cours grâce aux compléments proposés.

Enfin, les contenus proposés sont très variés et permettent de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので、そのつもりでいて下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Présentation du cours Auto-évaluation des étudiants	Organisation et calendrier de la classe TCF
2	Unité 6 L1 Mieux vaut prévenir que guérir	L'hypothèse Le corps et les maladies
3	Unité 6 L2 Tout va bien, docteur?	Les maladies Donner des précisions
4	Unité 6 L3 Les paradoxes de la santé	La place des pronoms Allergies et alimentation
5	Unité 6 L4 La santé avant tout	Le conditionnel pour le conseil Les démarches santé
6	Unité 7 L1 Pour tous les goûts	L'hypothèse incertaine Les styles vestimentaires
7	Unité 7 L2 La mode, liberté ou contrainte?	Subjonctif et opinions négatives Critiques et jugements
8	Unité 7 L3 La mode change les mentalités	Subjonctif et volonté, sentiments
9	Unité 7 L4 Parlons mode	La critique de mode
10	Unité 8 L1 A la une	La nominalisation Médias et actualité
11	Unité 8 L2 Faits divers	Le passif Le fait divers
12	Unité 8 L3 Info ou intox?	Discours indirect Interviews et fausses nouvelles
13	Unité 8 L4 Place au débat	Le débat
14	Bilan	Projet Entraînement au DELF B1

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ODYSSÉE, Niveau B1 ; A. Bredelet, Bruno Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International
ISBN : 978-2090355802

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé (仏辞書の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題, ミニ発表, その他的小テスト:約 30 %
- ・リーディングマラソン (フランス語多読):約 20 %
- ・作文:約 25 %

・出席点:約 25%。尚, 出席点に関しては減点方式をとり, 4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり, 遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので, 該当しない。)

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.

Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

- ・Homework, short tests and presentations: app.30 %
- ・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
- ・Essays: app.25 %
- ・Attendance: app.25%。

LANf300GA

フランス語アプリケーション

カレンス フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈タ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées en priorité afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Des exercices de grammaire et de vocabulaire seront également proposés pour renforcer le niveau général en français. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】

The goals of this course are as follows :

A. Develop oral (mainly) capacity in French language at intermediate level.

B. Know how to use French in concrete situations of everyday life.

C. Learn more about France and French customs.

This course can also help you to prepare exams as DAPF Jun 2Kyu or DELF A2 / B1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante. S'il y a des modifications de la progression des cours et des échéances pour les tests, elles seront annoncées sur le site du système de soutien pour le cours à distance "Hoppi".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications sur le programme du cours L1 p8 Faire le marché Il faut/la quantité	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. (Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
②	L2 p12 Passer une commande Prépositions "à" "de" Conditionnel+ bien	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	L3 p16 Les prix Question familière, Pronoms démonstratifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	L5 p22 Modifier une réservation Diverses prépositions Infinitif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom "de"	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)

⑦	Test de mi-trimestre	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire
⑧	L9 p32 Faire des comparaisons Verbes construits sur des adjectifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	L12(1) p44 Parler des lieux 1 Agence immobilière Subjonctif ou indicatif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	L16 p62 Parler de sa santé Verbes pronominaux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	Test final	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

【テキスト（教科書）】

Communication Progressive du Français - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l'élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 %, and in class contribution 10 %.

【学生の意見等からの気づき】

Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

CD

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【Outline (in English)】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panel of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture. Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 %, and in class contribution 10 %.

LANf300GA

フランス語アプリケーション

ル・ルー清野 ブレンダン

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈タ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire (A2/B1). A travers différents types d'exercices, les étudiants pourront développer et renforcer leurs compétences de compréhension et de production à l'oral ainsi qu'à l'écrit. Ils pourront aussi, à travers les thèmes étudiés, compléter et élargir leurs connaissances sur les cultures francophones, notamment à travers l'étude intensive d'un film.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités d'écoute et d'expression orale et écrite. En lien avec les autres cours de français applications, il permet la préparation des examens du DELF (niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Les étudiants réaliseront diverses activités à partir de scènes tirées d'un film (présenté en début de semestre): dialogues à trous, description de scènes, questions sur le contenu..., leur permettant de travailler à la fois la compréhension orale, l'expression orale, mais aussi l'expression écrite.

いわゆる「Contents based learning」というアプローチで、具体的にはフランス語の映像を教材に、台詞を聞き取って理解した上で、様々な興味深い場面について質問に答えたり、意見を述べたり、会話・議論をしたりします。その中から出てきた重要な文法項目を復習・学習したり、面白いフレーズに対して例文を作ったりもします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Introduction	Présentation du cours, des participants et du film étudié en cours
②	Scènes 1 à 6	Présentation des personnages 作文 1 : décrire une personne
③	Scènes 7-8	Premier déplacement des personnages
④	Scènes 9-10	La famille des personnages
⑤	Scène 11	作文 2 : imaginer la suite de l'histoire
⑥	Scènes 12-13	Deuxième déplacement des personnages
⑦	Scènes 14-15	La nouvelle vie des personnages
⑧	Scènes 16 à 18	Le nouveau travail des personnages
⑨	Scènes 19 à 21	作文 3 : Résumer des éléments d'information
⑩	Scènes 22 à 25	Tentative d'évasion

⑪	Scène 26	Le rassemblement 作文 4 : Décrire une scène au passé
⑫	Scène 27	Le marchand ambulant
⑬	Scènes 28-29	Tentative de fuite et punition
⑭	Scène 30	Le Code noir

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, en cours ou pour le cours suivant (regarder les scènes suivantes, réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Documents préparés et distribués en cours ou sur "hoppi" par l'enseignant.

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé (仏仏辞典の持参が望ましい), et au minimum un dictionnaire français-japonais / japonais-français (少なくとも和仏／仏和辞典は必須)

【成績評価の方法と基準】

・宿題, ミニ発表, その他の小テストや課題:約 30 %
・リーディングマラソン(フランス語多読):約 25 %
・作文:約 25 %
・出席点:約 20%。尚, 出席点に関しては減点方式をとり, 4回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり, 遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので, 該当しない。)

【Prerequisite】

Avoir fait deux ans de français, ou justifier d'un niveau A2 au minimum.

【Outline (in English)】

The purpose of this course is the development of communication skills (oral and written) in French for intermediate level (A2/B1). Through different kinds of activities mainly based on a movie (listening, ask and answer questions, reading, writing), students will strengthen their comprehension and production capacities in order to develop both oral and writing expression.

Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

- ・Homework, short tests and presentations: app.30 %
- ・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
- ・Essays: app.25 %
- ・Attendance: app.25%。

ART300GA

現代美術論

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーマンス、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。

この講義では、現代美術に関する理論と実践について講義します。現代美術のコンテキストを社会学、人類学や科学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイデアについての理解を深めます。

みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PCでの学習を推奨します。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンクを掲載する。
2. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Form）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおく」と回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 - 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。シラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について 授業の進め方と方法について 評価方法と基準
第2回	現代美術の基礎知識 1 メディアとアート	美術の様々な技法やメディアについて確認してみましょう。この授業ではメディアの歴史の変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。
第3回	現代美術の基礎知識 2 20世紀の美術	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派・ダダ、シュルレアリスム、アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート
第4回	現代美術の基礎知識 3 21世紀の美術	1980年代に、アメリカの商業・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」YBA、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート
第5回	ワークショップ 1	「現代美術の基礎知識」の講義内容の確認をします。
第6回	身体とパフォーマンス 1	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カプローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。
第7回	身体とパフォーマンス 2	パフォーマンス・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第8回	身体とパフォーマンス 3	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んでいきます。

第9回	身体とパフォーマンス 4 言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプチュアルアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリーリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第10回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	「身体とパフォーマンス」の講義内容の確認をします。 ワークショップ・音と言葉のパフォーマンス
第11回	社会と関わるアート1 スライス・オブ・ライフ日常を描く	スライス・オブ・ライフは、映画や小説、演劇の世界でありふれた日常を描くことを指しますが、日常を切り取る手法は絵画や映像などの美術作品にも存在します。この講義では、日常をテーマとしてフィールドワークを重ねて作品化するアーティストの手法について考察します。
第12回	社会と関わるアート2 アートと文化研究	文化研究（カルチュラル・スタディーズ）やパフォーマンス研究（パフォーマンス・スタディーズ）は人種や民族、ジェンダーやなどの社会的な課題や日常、アイデンティティなど様々なテーマとした学際的研究アプローチについての理解を深めます。
第13回	社会と関わるアート3 社会と関わるアート	ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	「社会と関わるアート」の授業内容の確認をします。 ワークショップ・コラボレーションワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
 デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020
 小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年
 『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
 『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
 『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

This course is about contemporary art theory and practice.

Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.

The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

Learning Objectives

The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.

It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

PHL200GA

フランス語圏の文化 I (思想)

大中 一彌

配当年次/単位：1～4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈G〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

[授業の目的] この授業では、17世紀を中心とするフランスの思想や文化をめぐり、いくつかの作品を概観します。この時代は、その後、グローバルに広がっていく近代社会の基本的な枠組が一よかも悪くも一西ヨーロッパにおいて形づくられた時代です。この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、洗練されたものにしていくのに役立ちます。

【授業の概要】

※世界史以外を受験のさいに選んだ人を念頭に置きつつ、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下に記述します。

・デュビイ&マンドルー『フランス文化史』IIによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスへも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令(1598年)により收拾したのはブルボン朝の創始者アンリ4世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みで囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性をもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。

・17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。ナントの勅令の廃止(1685年)によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント(オランダ)を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ(約2000万人)にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちが積みあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する(現代でいう)プロバガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような影響力も実際に有していた。

・イギリスやオランダとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地であったこの時代のフランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。

【到達目標】

1. 各回のテキストの講読をつうじて、16世紀から17世紀にかけてのフランスにおける思想や文化を代表する作品に関する概要をつかむ。
2. 各回のテキストに登場する人物や作品から、そのなかに含まれている主題を、ステレオタイプに陥らずに、見いだす力を養う。
3. 権力と正義、そして宗教的狂信と暴力の関係について、受講する学生それぞれがみずからの考えを練り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この授業は基本的に「対面」です。

・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行いますが、学習支援システムや Google Classroom を利用する場合があります。

・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱いきれなかった内容を補足する動画を、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入①：なぜこの科目？ 高校2年生の視点から	映画「アデル、ブルーは熱い色」
第2回	導入②：17世紀の前には16世紀が(フランスにおけるルネサンス)	ラブレール『ガルガンチュワとパンタグリユエル』 モンテーニュ『随想録(エッセー)』
第3回	「フランスの」思想？	石井洋二郎『フランス的思考』 アンドレ・シエグフリート『西欧の精神』 バラエティアートワークス『デカルト 方法序説—まんがで読破—』
第4回	情念と理性 ～秩序 vs 破壊的な混沌～	赤木昭三・赤木富美子『サロンの思想史』 ボワロー『詩法』 ラシーヌ『フェードル』
第5回	遠近法と劇のなかの劇 ～距離と情念～①	バルトルシャイティス『アナモルフォーズ』 タピエ『バロック芸術』 コルネイユ『舞台は夢』
第6回	遠近法と劇のなかの劇 ～距離と情念～②	バラトン『庭師が語るヴェルサイユ』 ボーサン『ヴェルサイユの詩学』 フーコー『言葉と物』
第7回	「隠れた神」を読みとる	カッシーラー『デカルト、コルネイユ、スウェーデン女王クリスティナ』 拙稿「自発的隷従とは何か」 高階秀爾(たかしな しゅうじ)『フランス絵画史』
第8回	「宮廷社会」と感情のゆくえ	エリアス『宮廷社会』 モリエール『町人貴族』『人間嫌い』 ラファイエット夫人『クレヴの奥方』
第9回	中間ふりかえり	映画「王は踊る」
第10回	ヴァニタスと神の恩寵	フィリップ・ド・シャンペーニユ「ヴァニテ、あるいは人生の寓意(アレゴリー)」 「1662年の奉納画」 ルイ・コニュ『ジャンセニズム』 パスカル『田舎人への手紙(プロヴァンシャル)』

- 第11回 モラリストと仮面① ラ・フォンテーヌ『寓話』から「セミとアリ」「寓話の力」「M・L・D・D・L・Rへ」ファフ・ララージュ（ラッパー）「オオカミと仔ヒツジ」マリアヌス・ヴルシュ（ラジオ番組）「ジャン・ド・ラ・フォンテーヌまたは反抗する詩人」
- 第12回 モラリストと仮面② ラ・ロシュフーコー『箴言（しんげん）集』箴言 266 番「怠惰はまったく柔弱ではあるが、にもかかわらず、しばしば他の情念の支配者にならずにはいない」他
- 第13回 バスカルの賭け Pari pascalien 映画「モード家の一夜」バスカル『パンセ』『デュラス × ミットラン対談集 パリ6区デュパン街の郵便局』アントワヌ・コンパニオン『バスカルと過ごす夏』から「バスカルとマルクス主義者」（ラジオ番組）
- 第14回 まとめ あなたにはどの箴言が刺さりましたか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (ア) 予習は必要ありません。
 (イ) 授業にたいするコメントを書いてもらう場合があります。
 (ウ) (イ) 以外で、希望する受講者が授業内容にかんする話題提供を行った場合、積極的な参加態度として加点します。指定する LMS (学習支援システム-Hoppii の掲示板か Google Classroom のストリーム>コメント) に、文章やリンクを貼り付けてください。
 (エ) この授業の準備や復習に必要な学習時間は、提示された資料や映像を検討したり、上記 (イ) (ウ) を行ったりするのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書を買う必要はありません。
- ・シラバスの【授業計画】に示されている内容にかんする資料を毎回配布します。

【参考書】

- 参考となる映像作品：
 パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994年。
 ジェラルド・コルビオ監督『王は踊る』2000年。
 エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969年。
 リュック・ベッソン監督『狼（シャネル No.5 の広告）』1998年。
 ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973年。
 参考となる音楽作品：
 夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題“Le Ballet Royal de la Nuit”で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しません (0%)
 (イ) 期末レポート：実施しません (0%)
 (ウ) 授業への参加 (50%)
 (エ) 担当範囲外における発言など積極的な参加 (40%)
 (オ) その他（運営協力や講師のミスの指摘）(10%)
 ※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・問い合わせ先や、この授業で扱う範囲（17世紀のヨーロッパ）に関する画像たちを、次のリンク先に置いておきましたので、ぜひご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://docs.google.com/document/d/1k6QWm-Hdj6ozZfzcQw4EUyUyJKC3mlQxIx1D1yG2uBVc8/edit?usp=sharing>

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布や学生側からの情報の提示など、さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii等）で行ないます。そのため、こうしたサイトを使うのに必要な情報環境はあったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ①法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。
 ②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。
 ③履修にあたりフランス語の能力は要求していません。
 (※) この「フランス語圏の文化 I（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral participations in Japanese will be required.

[Learning Objectives]

1. Gain an overview of representative works of French thought and culture of the 16th and 17th centuries through the reading of the texts in each session.
2. Foster the ability to identify, without stereotyping, the themes contained in the characters and works of each text.
3. Develop each student's own ideas about the relationship between power and justice, and between religious fanaticism and violence.

[Learning activities outside of classroom]

- (a) No preparation is required.
 (b) Students may be asked to write comments on the class.
 (c) Students who wish to contribute topics related to the class content other than (b) will receive points for their active participation. Please paste the text or link to the designated LMS (Learning Support System-Hoppii's Discussion Board or Google Classroom's Stream > Comments).
 (d) The study time required for preparation and review of this class will be the time needed to study the materials and videos presented and to do (b) and (c) above. Since this is a class for diverse students with different proficiency levels in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be specified, but in accordance with the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each 2 credit lecture and seminar should be at least 4 hours per session.

[Grading Criteria]

- (a) Class participation (50%)
 (b) Active participation such as speaking outside the scope of the course (40%)
 (c) Others (cooperation in administration and pointing out mistakes of the instructor) (10%)

* Based on this grading method, those who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class.

ART200GA

フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈A〉〈D〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代フランスの絵画・写真・映画の歴史を概観し、芸術的・社会的な意義を学ぶ。

【到達目標】

エポック・メイキングな芸術家や流派、作品の名前などを覚え、その歴史的意義や社会背景を説明できるようになる。あわせて、鑑賞力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義と関連作品の鑑賞・分析を交互に行う。

コメントシートに関するフィードバックは授業内や **hoppii** で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義のオリエンテーション
第2回	フランス古典主義	クロード・ロラン ニコラ・プッサン
第3回	新古典主義とロマン主義	ダヴィッド、アングル ドラクロワ
第4回	近代絵画のはじまり	写真の普及 写実主義 マネとボードレール
第5回	印象主義	モネ、ルノワール、ロダン
第6回	ポスト印象主義	スーラ、ゴッホ、セザンヌ
第7回	映画の誕生	リュミエール兄弟、メリエス
第8回	アヴァンギャルド1 (キュビズム、フォーヴィスム)	ピカソとマチス ドローネーの抽象絵画
第9回	アヴァンギャルド2 (ダダイスム、シュルレアリスム)	ル・コルビュジエの建築 デュシャン、エルンスト、ダリ、ブニュエル
第10回	エコール・ド・パリと詩的レアリスム	ユトリロ、藤田 クレール、ジャン・ルノワール
第11回	パリ写真	アジェ、ブラッサイ、カルチエ＝ブレッソン
第12回	スーヴェル・ヴァーグ	バザン、トリュフォー、ゴダール
第13回	補遺	これまで取り上げられなかった重要芸術家 期末試験の説明
第14回	期末試験	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布される資料を授業後によく読み復習すること。講義対象になった映画を自分で鑑賞することが望ましい。国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

本授業の復習時間は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントで代用する。

【参考書】

中条省平『フランス映画史の誘惑』集英社新書

そのほかは随時挙げる。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートやミニ・レポートによる平常点（50%）+期末試験（50%）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

【Outline (in English)】

【Course outline】 We take a general view of history of French fine art, photography and movie.

【Learning Objectives】 The aim of this course are to know the outline of history of Modern French Arts, and to have an appreciation of great works.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

【Grading Criteria/Policies】 Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Term-end examination(50%), In-class contribution (50%)

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈A〉〈G〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。

本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。

なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- ① フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ② 多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ③ 一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。

具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。

なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション： フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴史状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。

第13回 ケベック州の文化③

・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。

第14回 総括

・本授業の全体のまとめ
・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。
・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（ヤカナダ）に関する情報を集めてほしい。
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】

・各分野の参考書は、各授業において提示する。

・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。

小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための54章』エリアスタディーズ・72巻、明石書店、2009年。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

①平常点（コメントシートなど）：40%

②期末レポート：60%

・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。

・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】

・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。

・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もあります。

【Outline (in English)】

This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of Quebec.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈大〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

この授業は、カタルーニャの歴史・文化・社会を知るための入門であると同時に、批判的な観点を培いつつ、世界の事情とのつながりを探求することも目的とします。スペインにありながらスペインではないという曖昧な状況を体現するカタルーニャには、例のない独特な文化のみならず、今日のグローバル化社会を理解するための矛盾＝ヒントも多く見出されます。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）」もあるので、関心を持った人はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャの世界に本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A）」および「カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

- ① カタルーニャの歴史・文化・社会に関する一般的な知識を身につけること。
- ② カタルーニャと世界とのつながりを視野に入れた研究・論述・議論を行うこと。
- ③ カタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ① 授業態度：主体的に学ぼうとする姿勢や、ディベートに積極的に参加したりする態度です。
- ② アクティブラーニング：学生が選んだカタルーニャに関するテーマの個人的な研究・発表です。
- ③ 自主学習ファイル：カタルーニャの歴史・文化・社会に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。
- ④ 期末テスト：選択回答・自由記述式の筆記テストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方の説明。
2.	先史・古代史・中世史	おおよそ 15 世紀まで。
3.	近代史	おおよそ 16 世紀から 19 世紀初頭まで。
4.	現代史	おおよそ 20 世紀から現在まで。
5.	バルセロナの都市空間史	都市空間を分析する妥当性、歴史的な変貌、大型イベント、現代のジェントリフィケーションなど。
6.	言語	カタルーニャ語の形成過程、各地域の特徴、現状など。

7.	文学	各時代の文学の特徴や主な作家、名作の紹介など。
8.	民俗文化	祭りと習俗（クリスマス、サン・ジョルデイの日、パトゥム、サン・ジュアン祭り）、民俗芸能（人間の塔、サルダナ）、闘牛の禁止など。
9.	建築・絵画	ロマネスク、ガウディ、ピカソ、ミロ、ダリなど。
10.	音楽	クラシック音楽、ノバ・カンゾー、現代音楽など。
11.	食文化	伝統的な料理と行事食、現代の超創作料理など。
12.	スポーツ	巡検運動、人民オリンピック、バルセロナオリンピック、FC バルセロナの特性、スポーツと政治の関係など。
13.	アクティブラーニング	学生が選んだカタルーニャに関するテーマの個人的な研究・発表です。
14.	期末テスト	選択回答・自由記述式の筆記テストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも 180 分の予習と 60 分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、その「質」も非常に大事です。例えば、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための 50 章』明石書店。

【参考書】

教場ではより細かい参考書リストを提供します。
田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
——（2019）『物語 カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。
立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための 50 章』明石書店。
Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell & Brewer.
Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

- ① 授業態度 [30%]
- ② アクティブラーニング [30%]
- ③ 自主学習ファイル [20%]
- ④ 期末テスト [20%]

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。また、新型コロナウイルス感染症の流行等、社会状況を鑑みて、一部の授業をオンラインで行う可能性があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Barcelona”, “Gaudí”, “Dalí”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

This class is not only meant as an introduction to Catalonia's history, culture and society, but also aims to cultivate critical thinking and search connections to world affairs. Being in Spain, but at the same time not being Spain proper, Catalonia incarnates an ambivalent situation. However, it is precisely within this complexity that one can find not only the uniqueness of its culture, but also numerous contradictions which become hints for understanding today's global society.

Finally, this class is followed by "Catalan Culture IV (History and Society B)", so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take "Catalan Culture I (Language A)" and "Catalan Culture II (Language B)" as well.

[Learning Objectives]

1. Acquire a general knowledge about Catalonia's history, culture and society.
2. Research, communicate and discuss critically on Catalonia and its linkage to the world.
3. Find motivation so as to continue having interest in Catalonia's history, culture and society.

[Learning activities outside of classroom]

It is necessary at least 60 minutes for preparing and 30 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the "amount" of time, but also to its "quality". For example, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

[Grading Criteria / Policy]

1. Class participation (30%)
2. Active Learning (30%)
3. Self-study file (20%)
4. Written exam (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

HIS300GA

宗教社会論Ⅱ

田中 浩喜

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・受講を希望する人は9月21日（木）までにHOPPIIに登録してください。100名を超える場合は抽選を行います。9月25日（月）に抽選結果を発表します。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
- ・各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
- ・各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて学習支援システム（HOPPII）で提出してもらいます。
- ・授業の中で、各界のリアクション・ペーパーに関するフィードバックやコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	アメリカとヨーロッパの世俗神学	20世紀後半のアメリカとヨーロッパにおける世俗神学と神の死の神学を取り上げ、それが当時の世俗化論において有した意味を検討する。
4	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
5	ラテンアメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
6	アメリカにおけるフェミニスト神学	20世紀後半以降のフェミニスト神学の展開と多様性を、アメリカでの議論に焦点をあてながら検討する。
7	戦前の日本におけるキリスト教の社会運動	戦前の日本におけるキリスト教の歩みを、とりわけキリスト教社会主義に焦点を当てながら検討する。
8	戦後の日本におけるキリスト教の社会運動	戦後の日本におけるキリスト教の歩みを、靖国問題に関する社会運動に焦点を当てながら検討する。
9	近代のフランスにおけるキリスト教とライシテ	革命以降のフランスにおけるライシテ（世俗主義）の形成過程において、キリスト教が果たした役割を検討する。

10	現代のフランスにおけるキリスト教とライシテ	20世紀後半以降のフランスにおけるライシテの変容とともに、キリスト教と国家の関係がいかに変化したのかを論じる。
11	キリスト教とセクシュアリティ	フランスにおけるカトリック教会の変容を、同性婚や生殖補助医療、性的スキャンダルをめぐる近年の議論を概観しながら検討する。
12	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
13	ポスト世俗社会のキリスト教	現代の宗教研究で「ポスト世俗」が重要なテーマになっていることを確認したのち、その議論におけるキリスト教の位置付けと、その議論に神学が与えている影響について検討する。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- 栗林輝夫『現代神学の最前線―「バルト以後」の半世紀を読む』（新教出版社、2004年）。
- 土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』（新教出版社、2004年）。
- 森本あんり『アメリカ・キリスト教史―理念によって建てられた国の軌跡』（新教出版社、2006年）。
- Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).
- 芦名定道『現代神学の冒険―新しい海図を求めて』（新教出版社、2020年）。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（30%）
 2. 期末試験（70%）
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器ならびにインターネットへの接続環境が必要です。

【Outline (in English)】

The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.

Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.

Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.

The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

ARSk300GA

人の移動と国際関係 I

曾 士才

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：人の移動と国際関係 I（華僑・華人社会）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈G〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人の移動」という観点から 19、20 世紀のアジアの歴史を見ると、中国系移民の動きを筆頭に挙げることができる。中国大陸から移住し、現地に定着した華僑（中国国籍保有者）、華人（現地国籍保有者）を合わせると 2 千万人から 3 千万人といわれており、これら中国系移民が現地社会に与えた影響は計り知れないものがある。この授業では、華僑の移住と定着、ネットワークとアソシエーション、生活・文化などについて基本的知識を得るとともに、「内なる異文化」である日本華僑の歴史と社会の特徴、人々の日常生活、日本社会との関係などを理解し、等身大の日本華僑像を持てるようにする。

【到達目標】

中国系移民に関する基本的な知識を得るとともに、日本における多文化共生について考える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、東南アジアを中心に世界に広がる華僑・華人の歩みと現状について概観する。後半の授業では、日本における華僑華人の歴史と社会の特徴を具体的に紹介する。

課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～華僑の誕生	華僑・華人の見方、華僑の歴史
第 2 回	華僑の歴史	東南アジアへの移住と定着
第 3 回	華僑のネットワーク	任意加入団体、Chineseness、信用
第 4 回	シンガポールのチャイナタウン	チャイナタウンの形成と変貌
第 5 回	アメリカ大陸への移住	移住の歴史、ロサンゼルス、ニューヨークの新旧チャイナタウン
第 6 回	華僑から華人へ	エスニシティの変化、華人経済、中国との関係
第 7 回	日本華僑の歴史と社会（1）	江戸時代、長崎、唐人貿易、唐人屋敷、唐通事
第 8 回	日本華僑の歴史と社会（2）	明治から昭和へ、三把刀、中華会館
第 9 回	日本華僑の歴史と社会（3）	二つの大戦、戦後から現在まで、華僑総会、新移民
第 10 回	日本華僑の生活空間	中華街の実像、横浜中華街、池袋の中華街
第 11 回	日本華僑の教育	華僑学校の特色、学校を取り巻く環境
第 12 回	日本華僑の信仰と習俗	普度勝会と中国人墓地
第 13 回	日本華僑の文化復興と共生	ランタンフェスティバル、地元との共生
第 14 回	新華僑の台頭	ネットワークと企業活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前に指示された参考書所収の論文を読み、毎回の授業に向けた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

山下清海編『華人社会を知る』明石書店 2005 年

華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』丸善出版 2017 年

曾士才、王維編『日本華僑社会の歴史と文化—地域の視点から』明石書店 2020 年

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを使ったクイズへの回答（10 %）と期末に課すレポート（90 %）で成績評価を行う。なお、クイズへの回答は成績評価の大前提となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は対面を基本としますが、初回のみオンラインで実施します。受講者数が教室定員を超えるような場合は、2 回目以降の授業で教室変更の可能性があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the migration and settlement, network and association, custom and lifestyle of overseas Chinese in the world, especially focusing on overseas Chinese in Japan. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about overseas Chinese, and also to be able to evaluate ethnic diversities in Japan.

Your required study time is two hours for each class meeting.

ARSa400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介する動画（約10秒）をご覧ください <https://youtube.com/shorts/Ro6Mhc34ck8> この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2022年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第2次世界大戦後の統合をめぐる政治史やEUの諸機構に焦点をあてるやり方があります（「EUの政治と社会」）。経済学や経営学を学ぶ立場からは、同じく第2次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。農業経済学の観点からEUの共通農業政策（CAP）を扱う授業も開設されています（「農業経済論A」）。グローバル教養学部（GIS）には、中世ないし近代以降のヨーロッパ史に注目した授業があります（「European History」, 「History of Modern Europe」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革もたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、教室での「対面」授業が基本です。ただし、就職活動や体調など、ひとりひとりの学生の事情により、Zoomを活用した授業参加も積極的にみとめています。
- ・授業時間（100分）の前半80分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（50-60分）にあてています。
- ・授業時間（100分）の後半20分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料はGoogle Classroom や学習支援システム-Hoppii をつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppii を利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・授業内容の録画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明

2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代 考古学的定義	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	神話と政治	ギリシア世界
5		「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク朝、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目的の当たりした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. とても簡単な小テストが、学習支援システム-Hoppii 上で宿題として出される場合があります。
2. 大学設置基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】

教科書を買う必要はありません。学習支援システム-Hoppii や Google Classroom 上で PDF ファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格（レターグレードでC マイナス以上）とします。

- ・期末テストは行いません 0%
- ・出席はとりません 0%
- ・小テストの受験【Hoppii を使うため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます】60%
- ・運営への協力【協力してくれた方に加算しています；配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。オンライン授業の受講に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】5%
- ・グループディスカッション&学生間の共働【グループディスカッションへの参加や、Google Classroom 上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等】5%
- ・期末レポート【あくまで希望者のみ提出です】30%

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそう敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談も OK です。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://docs.google.com/document/d/1N26CUUJXPX-y1xfITeM4eY07XOVtLf8b0Y3BVZ7111/edit?usp=sharing>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in this course will be decided based on the following:

- Quizzes on LMS-Hoppii - 60%
- Discussion / Active contribution (Participating in class discussions via Zoom) - 5%
- Other kinds of contribution (Cooperation in class management to facilitate the discussion, etc.) - 5%
- Term paper (optional) - 30%

SOC200HA

現代社会論 I

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性等の問題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンドで講義ビデオを配信し、小課題を出します。学習支援システムにおいて、提出されたコメントシートや課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	理論と概念の重要性、社会学と持続可能な社会の構築、授業の進め方
第 2 回	「社会を社会的に考える」とは	社会的想像力
第 3 回	近代化と社会	分業、連帯、アノミー、社会的事実
第 4 回	個人と社会	社会的存在としての人間、アイデンティティ、社会化
第 5 回	資本主義と労働	労働、階級、搾取
第 6 回	格差の再生産	ハビトゥス、文化資本、教育、文化的再生産
第 7 回	前半のまとめ、試験 1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第 8 回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第 9 回	フェミニズム理論	知識とジェンダー、労働としての家事、感情労働、インターセクショナルリティー
第 10 回	ポストコロニアリズム	オリエンタリズム、サバルタン、人種、多様性
第 11 回	社会変化	構造機能主義と紛争理論、社会運動論
第 12 回	情報化社会	格差、ジェンダー、人種、権力の理論を使って検討
第 13 回	現代日本社会と社会学理論	理論を使って社会を分析するとは
第 14 回	後半のまとめ、試験 2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014 『社会学の歴史 I』有斐閣
クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015 『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017 『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎週の小課題を含む）50%、試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間での学びの共有や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society.

【Course outline】

Specific topics to be covered include inequality, education, gender, race and ethnicity, and globalization. Each class consists of lectures and activities to apply theories to social issues we have today.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including small weekly assignments) 50%; Exams 50%

SOC200HA

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

その他属性：〈他〉〈夕〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会」は、多くの場合その構成員全ての経験や考えを平等に反映したものではありません。この歪みのひとつがジェンダーであり、社会を理解し議論する上で欠かすことのできない視点です。この授業では、家族、教育、労働、政治を含む社会の様々な側面をジェンダーの観点から検討します。学生一人一人が講義内容を理解するだけでなく、理論や概念を使って社会問題について議論することから主体的に学び、考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

本科目では、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に与える影響を、基本的な理論と概念、国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探ります。日常生活や現代日本社会における制度、規範を多角的・多面的に分析することから新たな知見を獲得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジェンダーの視点で社会を分析する意義、本科目の進め方
第2回	ジェンダーとセクシュアリティ	性別と性差、ジェンダーの規範、家父長制、グラデーションとしての性
第3回	家族の歴史と現在	家族とジェンダー、異性愛規範、母性イデオロギー、婚姻制度
第4回	子ども	家庭において子どもは何を学び育つのか、社会化
第5回	学校教育、スポーツ	学校教育の歴史、機会の平等と結果の平等、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム、スポーツとジェンダー
第6回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第7回	科学、知識、医療	科学史の中の女性、ジェンダー・イノベーション
第8回	賃金労働	少子化問題と労働問題、雇用体系、賃金格差、ワークライフバランス
第9回	リプロダクティブ・ライツ	生殖、性教育、セクシュアリティ
第10回	暴力	性犯罪と性暴力、法制度
第11回	表象と言葉	構築物としてのメディア
第12回	政治	民主主義、政治参画
第13回	フェミニズム	社会変革、持続可能な社会の構築
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

伊藤公雄・牟田和恵編 2015 『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
千田有紀・中西祐子・青山薫 2013 『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge and skills that enable them to examine various aspects of contemporary society (e.g., family, education, labor, and politics) from perspectives of gender.

【Course outline】

Lectures introduce historical changes and international comparisons, as well as theories. In addition to comprehending concepts and specific cases, students are required to complete assignments where they demonstrate their knowledge and ability to analyze social issues with gender perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SOC200HA

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

その他属性：〈他〉〈グ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。

社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることでできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会的想像力を身につけることのできる授業とすることを目指します。

【到達目標】

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会学的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。小課題では、理解した内容を身近な例を使って自分の言葉で説明し、学びを深めます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要とねらい、身体を社会的に分析する意義
第2回	身体社会学とは何か、階級と身体	労働、貧困、食、健康格差
第3回	人種	植民地主義、レイシズム、人種に関するカテゴリーの歴史的変遷
第4回	現代日本社会と人種	人種差別問題を自分たちの問題として考える
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体、身体の客体化、ステレオタイプ
第6回	ボディ・イメージ	身体の表象、「美」とされる姿の変遷、摂食障害、美容整形
第7回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	性自認と身体、異性愛規範

第8回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第9回	「正しい」と考えられている身体とは何か、逸脱は何を意味するか	障がい、医療化、障がいの社会モデル
第10回	優生思想	優生政策、優生思想は過去のものか、日本におけるハンセン病の歴史
第11回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ、生殖補助医療
第12回	いのちの終わりとは生命倫理	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植
第13回	身体と未来	機械と人間の融合、ナラティブを変える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版(2012年)

小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択——今、考えた脳死・臓器移植』岩波書店(2010年)

磯野真徳『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋社(2015年)

谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社(2008年)

柘植あづみ『生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』みすず書房(2012年)

マーゴ・デメット『ボディ・スタディー—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』(2017年)

アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体の未来』緑風出版(2004年)

毎日新聞『境界を生きる』取材班『境界を生きる 性と生のはざま』毎日新聞社(2013年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body. By completing this course, students are expected to be able to identify social issues pertaining to the theme of this class in their everyday lives and analyze them critically using sociological perspectives.

【Course outline】

We will consider topics including social class, gender, race, eugenics, and bioethics. After each lecture, students are expected to reflect on the contents and outline their thoughts on their comment sheets.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

DES300HA

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：グ, サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通じた共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軌轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軌轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然 1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然 2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり

第11回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	その他の世界の自然	これまでの補足、海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第14回	まとめ	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

PHL200HA

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈タ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想（個人の自由と反差別）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに 20 世紀の思想を扱います。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑＋次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。

単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第 2 回	個人の自由と反植民地主義 (1)	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトル『存在と無』を中心に (1) ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) —— 『弁証法的理性批判』を中心に
第 3 回	個人の自由と反植民地主義 (2)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (1) ——ジャン＝ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、 「植民地主義は一つの体制である」を中心に (1)
第 4 回	個人の自由と反植民地主義 (3)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (2) ——ジャン＝ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、 「植民地主義は一つの体制である」を中心に (2)

第 5 回	個人の自由と反植民地主義 (4)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (3) ——フランツ・ファノン『地に呪われたる者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (1)
第 6 回	個人の自由と反植民地主義 (5)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (4) ——フランツ・ファノン『地に呪われたる者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (2)
第 7 回	実存とフェミニズム	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『第二の性』
第 8 回	実存と老いの問題	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『おだやかな死』、『老い』
第 9 回	全体主義批判と人間性の問題 (1)	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナスマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第 10 回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』を中心に
第 11 回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』 ・クロード・ランズマン・『シヨア』 を中心に
第 12 回	全体主義批判と人間性の問題 (4)	ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン』 ・ロニー・ブローマン/エイアル・シヴァン『スペシャリスト』 を中心に
第 13 回	全体主義批判と人間性の問題 (5)	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』を中心に
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつと時間をかけて格闘すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート (30%) + 期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくすよう努力します。また、パワポを使う際は、もう少し視覚的にわかりやすいようにポンチ絵などを使うようにします。

【その他の重要事項】

2016 年度に「人間環境特論（西洋社会思想史 I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %

Short reports : 30 %

PHL300HA

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近現代社会哲学・思想（個人の自由・所有・権力・社会の関係）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、近現代ヨーロッパ社会哲学・思想を紐解きながら、個人の自由・所有・権力・社会について考えます。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	自由・所有・契約（1）	社会契約論者たちの考えた自由（1）
第3回	自由・所有・契約（2）	社会契約論者たちの考えた自由（2）
第4回	功利主義の罫	功利主義者たちの考える「効用」
第6回	古典派経済学の誕生	アダム・スミスの道徳感情論と労働価値説
第7回	産業社会の夢	初期社会主義者と「産業社会」
第7回	労働と疎外（1）	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など
第8回	労働と疎外（2）	カール・マルクス『資本論』
第9回	勤勉さと資本主義	マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

第10回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第11回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に
第12回	可視化されない労働	イヴァン・イリイチ『シャドウ・ワーク』
第13回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバルの市民権論
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（30%）+期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくします。また、記号の使い方、ポイントの大きさなどにも留意いたします。

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %

Short reports : 30 %

SOC300HA

Social Development and Sustainability 2

Chuanfei WANG

Term：春学期授業/Spring | Credit(s)：2 | Day/Period：木 5/Thu.5 | Campus：市ヶ谷 / Ichigaya | Grade：1～4

Notes：

その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【Outline and objectives】

This course explores social issues with sociological approaches. It introduces students to some major social theories and concepts in sociology. Topics include a review of sociology as a discipline, culture, socialization, social interaction, education, social stratification, networks, work, economic life, body and health, urbanization, population, environment, and globalization. It is a theory-oriented course. However, it addresses empirical questions such as (1) What is society? (2) How is society organized and structured? (3) Who are individuals and their roles in society? (4) How do individuals and society affect each other? and (5) What does sustainability mean to our contemporary and future human society? The goal of this course is to provide students with conceptual tools for understanding society, thereby some inspirations of how individuals can live a happy and meaning life and contribute to a sustainable world.

【Goal】

By emphasizing reading, discussing, and critical thinking skills, this course helps students build the foundation for a deeper understanding of theory and methods in the social sciences. Upon completion of this course, students will be empowered an eye to consider what happens in daily life with evidence-based reasoning. This course is designed to inspire students to think with their own talents, interests, and passion. Students have plenty of time expressing their own opinions and exchanging ideas with peers and instructor in each class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Among diploma policies, "DP3" is related

【Method(s)】

This is a lecture-and-discussion-based course. Instructor will lead each class session by giving a lecture on the topic of the day. Students are required to join several rounds of group discussions in class. These are very basic. Students are always encouraged to think beyond the box, be creative, and be their own leader of their learning experience!

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Course Orientation and Lecture	Orientation: Welcome students! Review Syllabus.
Week 2	What is sociology? II	Lecture: What is sociology? I Learn what sociology covers as a field and how everyday topics are shaped by social and historical forces. Recognize that sociology involves not only acquiring knowledge but also developing a sociological imagination.
Week 3	Asking and answering sociological questions.	Learn the steps of the research process. Name the different types of questions sociologists address in their research — factual, theoretical, comparative, and developmental.
Week 4	Culture and Society	Learn about the “cultural turn” and sociological perspectives on culture. Understand the processes that changed societies over time.
Week 5	Socialization and the Life Course	Understand how the four main agents of socialization contribute to social reproduction. Learn the stages of the life course, and see the similarities and differences among cultures.
Week 6	Social Interaction and Everyday Life in the Age of the Internet	Understand the core concepts of the “impression management” perspective. Recognize how we use impression management techniques in everyday life.

Week 7	Groups Networks and Organizations	Learn the variety and characteristics of groups, as well as the effect groups have on individual behavior. Know how to define an organization and understand how organizations developed over the last two centuries.
Week 8	Stratification, Class and Inequality	Learn about social stratification and the importance of social background in an individual's chances for material success. Know the most influential theories of stratification, including those of Karl Marx, Max Weber, and Erik Olin Wright.
Week 9	Work and Economic Life	Understand that modern economies are based on the division of labor and economic interdependence. Consider the different forms that capitalism has taken, and understand on a shift in the predominant form of industrial organization in modern society has shaped the kinds of jobs people are likely to find.
Week 10	Education	Learn sociologists' explanations for achievement gaps among different groups of students. Learn four major sociological perspectives on the role of schooling in society.
Week 11	The Sociology of Body	Understand how social, cultural, and historical contexts shape attitudes toward health, illness, and sexuality. Two theories of understanding health and illness, and historical approaches to sexuality
Week 12	Population, Urbanization and Environment	Learn the key concepts demographers use to understand world population growth (and Japanese depopulation) and the changes in cities. Some Influential Theories Understand how theories of urbanism have placed an increasing emphasis on the influence of socioeconomic factors on city life.
Week 13	Globalization in a changing world	Recognize that numerous factors influence social change, including the physical environment, political organization, culture, and economic factors. Understand the debates among skeptics, hyperglobalizers, and transformationalists over whether globalization differs radically from anything in human history.
Week 14	Course conclusion and reflection	Students do research presentation and peer review with selected topics covered in this course.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will spend 4-5 hours on class related work including read textbook before class as well as review textbook and complete study log after class each week.

【Textbooks】

Deborah Carr, Anthony Giddens, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum. (2018). Introduction to Sociology. Seagull Eleventh Edition. W. W. Norton & Company.

【References】

None.

【Grading criteria】

Students will complete the following assignments to earn credits.

1. In-class discussions except for weeks 1 and 14 (1 x12 times) 12%
2. Study logs (6 x 12 pieces) 72%
3. In-class research presentation 16%

【Changes following student comments】

Feedback is not available due to the change in instructor.

POL200HA

Global Society 1

Kohtaro ITO

Term：秋学期授業/Fall | Credit(s)：2 | Day/Period：火 3/Tue.3 | Campus：市ヶ谷 / Ichigaya | Grade：1～4

Notes：

その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【Outline and objectives】

This course examines "peace," which is one of the "Sustainable Development Goals (SDGs)" listed in the "2030 Agenda for Sustainable Development" adopted at the United Nations Summit in 2015. The SDGs are the goal of realizing a sustainable and better society where no one is left behind, and in order to achieve that goal, the realization of "human security" is required.

Understand the concepts of "peace and security" and learn about the "threats" that impede them.

The feature of this lecture is how to maintain peace based on the "fictitious scenario" of peace by utilizing the active learning method and actually becoming a political leader or policymaker. Incorporate a policy simulation that discusses and presents the best method with other students on whether to foster it.

In addition, we will deepen our understanding of the work of achieving peace and conduct off-campus training to interview practitioners engaged in peacebuilding.

【Goal】

- (1) What is "peace"? Organize what kind of state is called 'peace'.
- (2) Understand the concept of "security" and learn examples of what threatens 'peace'.
- (3) Learn the problems that must be overcome in creating peace through policy simulation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Among diploma policies, "DP2" is related

【Method(s)】

This course consist of lectures, discussions, group research, presentations, policy simulation, and various activities including final essay.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Overview of this lecture
Week 2	What is 'Peace'?	About the concept of peace
Week 3	What is 'Security'?	Organize the concept of the difference between human security and national security.
Week 4	International Relations Theory (1) Realism and Liberalism	Introduce the theory as a tool for understanding international relations.
Week 5	International Relations Theory (2) Neorealism and Neoliberalism	Introduce the theory as a tool for understanding international relations.
Week 6	Globalization	What is the impact of globalization on international affairs?
Week 7	Terrorism and Religion	Understand terrorism, which has become a global threat after the collapse of the Cold War, including its relationship with religion.
Week 8	Nuclear and International Relations	Think about the impact of nuclear weapons on international affairs and will deal with the issue of nuclear proliferation.
Week 9	United Nations and the international community	Think about the role and significance of the United Nations in building peace.
Week 10	What is 'Peacebuilding'?	Interview with practitioners who are actually doing the work of "creating peace".
Week 11	Discussion (Fieldwork)	In order to organize the knowledge gained through the lectures and fieldwork so far, the instructor will give various issues and the students will discuss with each other.
Week 12	Experience "what peace is". (Policy Simulation 1)	Experience what it takes to maintain or build peace based on fictitious scenarios.
Week 13	Experience "what peace is". (Policy Simulation 2)	Make final policy decisions and evaluate the results together.

Week 14 Summary / Overall Feedback Reflections and final remarks

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

(1) Pick up news related to each lecture theme by the next lecture, and summarize where the problem is and (2) possible solutions.

(2) Reviewing is also important. Summarize the points learned in the lecture and review the advice from the lecturer.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Materials will be distributed in this lecture.

Use news search on the Internet for your pre-learning.

【References】

References will be introduced in this lecture.

【Grading criteria】

Participation (30%), Presentation and Discussion (30%), Final report (40%)

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

No equipment is needed in this class.

【Others】

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

I have working experiences in the Executive and the Legislative bodies of Japan to deal with international relations, especially national security affairs. I will introduce actual examples from a practical point of view.

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しあっています。働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていきけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて理解する。〈まともな働き方〉を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では若年労働市場や働き方への現状と問題点、課題の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。中間レポートと期末レポートの執筆を求めます。初回の授業はオンラインで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介
2	男女雇用機会均等法とコース別雇用管理	男女雇用機会均等法の歴史とコース別雇用管理の実態
3	企業による女性活用の現在	正社員女性の戦力化
4	派遣労働を考える	派遣労働の歴史的推移と問題点
5	雇用ポートフォリオと非正規労働	雇用ポートフォリオ/多企業と労働者の双方から見る非正規雇用
6	非正規雇用の処遇改善	無期転換と同一労働・同一賃金
7	雇用によらない働き方	雇用によらない働き方の特徴と課題
8	中間レポート振り返り	中間レポートの解説
9	男女の働き方とワークライフバランス	ケアレスマン・モデルと夫婦の生活時間・仕事時間
10	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態
11	長時間労働の規制と労働時間管理	働き方改革と勤務間インターバル規制
12	女性の管理職登用	女性の管理職登用とクリティカル・マス
13	転勤を考える	転勤をめぐる課題と企業の対応
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
・川人博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

随時、計 6 回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が 0～1 回の学生や、いずれかのレポートに代筆や剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、キャリア形成について考えさせられた、身近な問題と考えさせられた、といった感想が見られる。働き方をめぐる現在の変化と皆さんの働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布や課題の提出を行う。オンラインの授業は zoom で行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず出席すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。zoom の URL は学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of changes in the labor market and working styles. The main themes include diversification of employment patterns, long working hours, work-life balance, and gender equality.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand issues related to changing labor market and work styles, and to apply the knowledge to realize decent work.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 40%

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈タ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	初期キャリアにおいて重要になる職業興味
第3回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第4回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第5回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第6回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第7回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習
第8回	能力を高める②	仕事もたらす一皮むけた経験
第9回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第10回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第11回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第12回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取り組み
第13回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第14回	今日のトピックス②	ダイバーシティとしての女性活用の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP 新書
守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90%

授業内で実施するリアクションペーパー 10%

【学生の意見等からの気づき】

zoomでの授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようになります。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いるPPTを事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

1-2回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 90%, Short reports :10%

MAN200MA

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈夕〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。今、社会は大きく変化しています。「人生 100 年時代」というように長寿化によりキャリアを考える期間は長期化し、同時に、人口構造の変化、デジタル化など社会の変動は大きく予測が難しくなっており、職業キャリアのあり方も変化しています。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえ直す必要性が高まっているといえます。

本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。

適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしていただくことが必須要件です。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発を取り巻く重要な経営動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、多元化の動向、勤務地政策の現状
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い、病氣治療との両立も含めて議論
12	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
13	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処のあり方
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、テキストに加えて、パワーポイント資料を使います。資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして出席してください。そうしないと授業のスライドについてこれません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（改訂版）』（中央経済社、2023 年 4 月出版予定）です。テキストに沿って授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果と授業出席内容で行います。期末試験を重視し、出席内容（ミニレポート形式、内容も重視する）を加味して評価します。期末試験 60 %、平常点 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。また、受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to acquire basic theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

佐藤 厚、武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈タ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄附講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオンリーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はあるような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第 1 回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第 1 回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄附講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄附講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいこととは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学ぶ。2022 年度実績は教育文化協会。
3	【課題提起②】 いま働く現場で何が起きているのか～労働相談からみた若者雇用の現状～	労働相談事例の中から、若者の声を中心に紹介することで、現在職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割について理解してもらう。2022 年度実績は連合事務局。
4	【ケーススタディ①】 労働組合の役割と組合員の活動 ～現場の意見集約から職場の課題改善をめざす～	労働組合は、仕事や働き方に関する組合員の不満・要望にどのように対応しているのか。どのような方法で現場の意見集約を行い、職場の課題改善に努めているのか。労働組合の苦情処理・日常活動の取り組み事例を通して、「職場こそ原点」といわれる労働組合の果たす役割と意義について考える。2022 年度実績は明治安田生命労組。

5	【ケーススタディ②】 非正規労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。流通産業を事例に、非正規労働者の課題を考える。2022 年度実績は伊藤ハム労組。
6	【ケーススタディ③】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く人が健康で安心して暮らすための課題は何か。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例から考える。2022 年度実績は安川電機労組。
7	【ケーススタディ④】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。2022 年度実績は通建連合。
8	【ケーススタディ⑤】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた取り組み事例から考える。2022 年度実績は自治労。
9	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらう。2022 年度実績は JAM。
10	【課題への対応①】 国際労働運動の役割 ～グローバル化への対応	進行するグローバル化に労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関との関わり、多国籍企業問題に対する取り組み事例、労働分野の開発協力活動などの事例を聴き、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割について考える。
11	【課題への対応②】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み	働く者を守るために、労働組合は働き方に関わる法改正にどのように関わっているのか。健康・安全確保のための労働時間制度の見直しや、雇用形態に関わらないすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みから考える。
12	【課題への対応③】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。
13	【修了講義】 連合運動の現在と未来～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考える。
14	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席（コメント内容含む）が 50 %、レポートが 50 %。出席を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【授業中に求められる学習活動について】

C,D,F

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

[Learning Objectives]

I have a deep understanding of changes in the workplace and problems in working with peace of mind.

He has practical knowledge of companies and industries, labor law, and social support.

[Learning activities outside of classroom]

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on your company, industry, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

Attendance (including comment content) is 50%, and report is 50%.

Focus on attendance.

LIN200LA

Intercultural Communication B

石原 紀子

Term：秋学期授業/Fall | Credit(s)：2 | Day/Period：木 3/Thu.3 | Campus：市ヶ谷 | Grade：1～4

Notes：※ Only a certain number of students

その他属性：〈ダ〉

【Outline and objectives】

In today's globalization, we are increasingly required to interact internationally across cultural borders. Misunderstandings and conflicts are bound to occur, which calls for constructive dialogues and creative solutions. In this course, we will focus primarily on "invisible culture" to deepen your understanding of diversity in cultural orientations, values, behavior, and language uses. You will also reflect on your intercultural experiences and explore your multicultural identities while studying dynamic cultural dimensions.

【Goal】

In this course, you will 1) cultivate your understanding of the relationships between culture and identity, 2) be able to analyze examples of and reasons for intercultural clashes and relate to others respectfully to come up with constructive solutions to intercultural issues and confusions, 3) be able to use concepts such as stereotypes, generalizations, othering, and marginalization in your analysis, 4) reflect on your intercultural experiences and multicultural mediation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

Before class you are required to work on reading and complete reading quizzes. In class we study relevant material, complete tasks in small groups, and share our discussions with the whole class. You are encouraged to actively participate in this problem-based learning (PBL). Feedback will be given orally in interaction throughout the course. Written feedback will be provided for your written assignments and class presentations within a week.

This course involves highly interactive activities. In order to reduce risks, depending on the pandemic situation class will be delivered through the combination of face-to-face and online instruction. Please check the announcement to be made on Hoppii before the start of the course.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	What is culture?	Visible/invisible culture, 3Ps in understanding culture
3	3Ps of culture, Characteristics of culture	Perspectives of culture
4	Stereotypes and generalizations	Definitions and examples
5	Essentialization	The language of generalization, experiences of marginalization
6	Othering and marginalization	Case study discussion

7	Cultural diversity in academia and the workplace	Understanding diversity as an asset
8	Similarities and differences in cultural orientations-1	Analysis of cultural orientations (#1-3)
9	Similarities and differences in cultural orientations-2	Analysis of cultural orientations (#4-6)
10	Cultural case studies - 1	Analysis of use of time and group dynamics
11	Cultural case studies - 2	Application of Hofstede's Cultural Dimensions and other frameworks
12	Student-led discussions - 1	Intercultural case studies (group presentations)
13	Student-led discussions - 2	Intercultural case studies (group presentations)
14	Student-led discussions - 3, reflection	Intercultural case studies (group presentations), Wrap-up discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You should complete assigned reading and/or writing before coming to class. Come ready to discuss the material with your classmates coming from different (sub)cultures.

According to the university guidelines, the preparation and review time of approximately two hours a week is recommended for this course.

【Textbooks】

Weekly readings will be made accessible through the course website (Google Classroom). Become familiar with this online resource to do your readings and post your assignments. You are also expected to check your university email account daily to keep up with course announcements.

【References】

Handouts and resources related to the course content will be made available in Google Classroom.

【Grading criteria】

You will receive a formal evaluation of your work at the end of the term. The grade on a late assignment will be lowered. You will be graded on:

- 1) Participation (20%)
- 2) Reading assignments and quizzes (50%)
- 3) Intercultural case study discussion (10%)
- 4) Final group paper (20%) (tentative breakdown)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【Changes following student comments】

Because this course is to be conducted in English, students must be competent speakers/writers of English (e.g., native or proficient with TOEFL® iBT 81 or above). International and Japanese students of any majors are welcome as long as they are interested in diverse world cultures. Students should view each other's cultural experiences as an asset to this course and create a friendly and respectful learning community.

【Equipment student needs to prepare】

Be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone when you attend class on campus.

LIN200LA

Intercultural Communication B

石原 紀子

Term：秋学期授業/Fall | Credit(s)：2 | Day/Period：木 3/Thu.3 | Campus：市ヶ谷 | Grade：1～4

Notes：※ Only a certain number of students

その他属性：〈ダ〉

【Outline and objectives】

In today's globalization, we are increasingly required to interact internationally across cultural borders. Misunderstandings and conflicts are bound to occur, which calls for constructive dialogues and creative solutions. In this course, we will focus primarily on "invisible culture" to deepen your understanding of diversity in cultural orientations, values, behavior, and language uses. You will also reflect on your intercultural experiences and explore your multicultural identities while studying dynamic cultural dimensions.

【Goal】

In this course, you will 1) cultivate your understanding of the relationships between culture and identity, 2) be able to analyze examples of and reasons for intercultural clashes and relate to others respectfully to come up with constructive solutions to intercultural issues and confusions, 3) be able to use concepts such as stereotypes, generalizations, othering, and marginalization in your analysis, 4) reflect on your intercultural experiences and multicultural mediation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

Before class you are required to work on reading and complete reading quizzes. In class we study relevant material, complete tasks in small groups, and share our discussions with the whole class. You are encouraged to actively participate in this problem-based learning (PBL). Feedback will be given orally in interaction throughout the course. Written feedback will be provided for your written assignments and class presentations within a week.

This course involves highly interactive activities. In order to reduce risks, depending on the pandemic situation class will be delivered through the combination of face-to-face and online instruction. Please check the announcement to be made on Hoppii before the start of the course.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	What is culture?	Visible/invisible culture, 3Ps in understanding culture
3	3Ps of culture, Characteristics of culture	Perspectives of culture
4	Stereotypes and generalizations	Definitions and examples
5	Essentialization	The language of generalization, experiences of marginalization
6	Othering and marginalization	Case study discussion

7	Cultural diversity in academia and the workplace	Understanding diversity as an asset
8	Similarities and differences in cultural orientations-1	Analysis of cultural orientations (#1-3)
9	Similarities and differences in cultural orientations-2	Analysis of cultural orientations (#4-6)
10	Cultural case studies - 1	Analysis of use of time and group dynamics
11	Cultural case studies - 2	Application of Hofstede's Cultural Dimensions and other frameworks
12	Student-led discussions - 1	Intercultural case studies (group presentations)
13	Student-led discussions - 2	Intercultural case studies (group presentations)
14	Student-led discussions - 3, reflection	Intercultural case studies (group presentations), Wrap-up discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You should complete assigned reading and/or writing before coming to class. Come ready to discuss the material with your classmates coming from different (sub)cultures.

According to the university guidelines, the preparation and review time of approximately two hours a week is recommended for this course.

【Textbooks】

Weekly readings will be made accessible through the course website (Google Classroom). Become familiar with this online resource to do your readings and post your assignments. You are also expected to check your university email account daily to keep up with course announcements.

【References】

Handouts and resources related to the course content will be made available in Google Classroom.

【Grading criteria】

You will receive a formal evaluation of your work at the end of the term. The grade on a late assignment will be lowered. You will be graded on:

- 1) Participation (20%)
- 2) Reading assignments and quizzes (50%)
- 3) Intercultural case study discussion (10%)
- 4) Final group paper (20%) (tentative breakdown)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【Changes following student comments】

Because this course is to be conducted in English, students must be competent speakers/writers of English (e.g., native or proficient with TOEFL® iBT 81 or above). International and Japanese students of any majors are welcome as long as they are interested in diverse world cultures. Students should view each other's cultural experiences as an asset to this course and create a friendly and respectful learning community.

【Equipment student needs to prepare】

Be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone when you attend class on campus.

LIN200LA

Intercultural Communication B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：Intercultural understanding and multicultural identities

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In today's globalization, we are increasingly required to interact internationally across cultural borders. Misunderstandings and conflicts are bound to occur, which calls for constructive dialogues and creative solutions. In this course, we will focus primarily on "invisible culture" to deepen your understanding of diversity in cultural orientations, values, behavior, and language uses. You will also reflect on your intercultural experiences and explore your multicultural identities while studying dynamic cultural dimensions.

【到達目標】

In this course, you will 1) cultivate your understanding of the relationships between culture and identity, 2) be able to analyze examples of and reasons for intercultural clashes and relate to others respectfully to come up with constructive solutions to intercultural issues and confusions, 3) be able to use concepts such as stereotypes, generalizations, othering, and marginalization in your analysis, 4) reflect on your intercultural experiences and multicultural mediation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Before class you are required to work on reading and complete reading quizzes. In class we study relevant material, complete tasks in small groups, and share our discussions with the whole class. You are encouraged to actively participate in this problem-based learning (PBL). Feedback will be given orally in interaction throughout the course. Written feedback will be provided for your written assignments and class presentations within a week.

This course involves highly interactive activities. In order to reduce risks, depending on the pandemic situation class will be delivered through the combination of face-to-face and online instruction. Please check the announcement to be made on Hoppii before the start of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	What is culture?	Visible/invisible culture, 3Ps in understanding culture
3	3Ps of culture, Characteristics of culture	Perspectives of culture

4	Stereotypes and generalizations	Definitions and examples
5	Essentialization	The language of generalization, experiences of marginalization
6	Othering and marginalization	Case study discussion
7	Cultural diversity in academia and the workplace	Understanding diversity as an asset
8	Similarities and differences in cultural orientations-1	Analysis of cultural orientations (#1-3)
9	Similarities and differences in cultural orientations-2	Analysis of cultural orientations (#4-6)
10	Cultural case studies - 1	Analysis of use of time and group dynamics
11	Cultural case studies - 2	Application of Hofstede's Cultural Dimensions and other frameworks
12	Student-led discussions - 1	Intercultural case studies (group presentations)
13	Student-led discussions - 2	Intercultural case studies (group presentations)
14	Student-led discussions - 3, reflection	Intercultural case studies (group presentations), Wrap-up discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You should complete assigned reading and/or writing before coming to class. Come ready to discuss the material with your classmates coming from different (sub)cultures.

According to the university guidelines, the preparation and review time of approximately two hours a week is recommended for this course.

【テキスト（教科書）】

Weekly readings will be made accessible through the course website (Google Classroom). Become familiar with this online resource to do your readings and post your assignments. You are also expected to check your university email account daily to keep up with course announcements.

【参考書】

Handouts and resources related to the course content will be made available in Google Classroom.

【成績評価の方法と基準】

You will receive a formal evaluation of your work at the end of the term. The grade on a late assignment will be lowered. You will be graded on:

- 1) Participation (20%)
- 2) Reading assignments and quizzes (50%)
- 3) Intercultural case study discussion (10%)
- 4) Final group paper (20%) (tentative breakdown)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Because this course is to be conducted in English, students must be competent speakers/writers of English (e.g., native or proficient with TOEFL® iBT 81 or above). International and Japanese students of any majors are welcome as long as they are interested in diverse world cultures. Students should view each other's cultural experiences as an asset to this course and create a friendly and respectful learning community.

【学生が準備すべき機器他】

Be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone when you attend class on campus.

LIN200LA

Intercultural Communication D

石原 紀子

Term：春学期授業/Spring | Credit(s)：2 | Day/Period：木 3/Thu.3 | Campus：市ヶ谷 | Grade：1～4

Notes：※ Only a certain number of students

その他属性：〈ダ〉

【Outline and objectives】

In this course, we start by discussing how arts facilitate learning, especially of current social issues related to equity, diversity, and social justice in the globalized world today. You are invited to become part of this learning community sharing your cultural and social knowledge and experience while learning from others of all majors enrolled in this course. You will experience various forms of art incorporated into social activism calling for social and ecological justice. Through this experience, you will understand social, cultural, political, and historical backgrounds associated with the given activism. Your learning will be facilitated through the modeling by the instructor as well as through peer teaching. We will also collaboratively research, discuss, and learn about non-violent peace activists from various cultures and ethnic groups in the world. This will provide you with an opportunity to consider a method and option of acting and relating to others with respect, empathy, and compassion within and across cultural borders.

【Goal】

In this course, you will: 1) understand and appreciate artistic expressions of equity and cultural diversity, 2) understand social activism behind artistic expressions, and 3) participate in an arts-based approach to social justice issues. You will also reflect on your own reactions to issues of equity and diversity and consider how this learning may influence your values, identities, and worldview in relation to your major field of study.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

Before class you are required to work on some reading assignments. In class we study new material, complete relevant tasks in pairs or small groups, and share your discussion with the class. You are encouraged to actively participate in group work and problem-based learning (PBL). Feedback will be given orally in interaction throughout the course. Written feedback will also be provided for your writing and oral presentations within a week of your assignment submission.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course information, getting to know each other
2	Learning language from/with art	Learning about social activism from poetry, Marshall Rosenberg
3	Poetry - 1, social activism	Developing multicultural identities through poetry, Mother Teresa
4	Poetry - 2, social activism	Appreciating poetry writing, Mahatoma & Katurabai Gandhi
5	Film, social activism	Film for art and social justice, Nelson Mandela

6	Stories/Story-telling, social activism	Narratives for equity and diversity, Mairead Corrigan McGuire & Betty Williams
7	Artistic creativity in peace linguistics, social activism	Language and peace, H. H. The Dalai Lama
8	Music - 1, social activism	Social activism through music, social activist (TBA)
9	Music - 2, social activism	Social activism through music, Peter Benenson
10	Children's literature,	Art and social justice in picture books, Sister Chan Khong
11	Folk tales	Peace education via kamishibai theater, Cesar Chavez
12	Novels	Social/ecological justice through literature, Meena Keshwar Kamal
13	Speeches	Equity and diversity expressed in a speech, social activist (TBA)
14	Wrap-up	Reflection and your artistic expression

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You should complete assigned reading and/or homework ahead of time and come to class ready for discussion. Review your lesson after class and complete reflective writing when assigned.

For your presentations, develop a peer teaching session on artistic expressions of diversity or equity issues (micro teaching) and creative multi-media talk on a social activist of your choice (mini-research presentation). Prepare a presentation and discussion appealing and engaging for your peers and rehearse it to be effective.

University guidelines suggest the preparation and review time of around two hours a week for a two-credit course like this one.

【Textbooks】

Censor, Meera. (2011). Humanitarians for justice, nonviolence, and peace. San Bernadino, California.

【References】

Other readings will be distributed through the course website, Google Classroom. Handouts and resources related to the course content are to be provided in class or made available in Google Classroom as well.

【Grading criteria】

You will receive a formal assessment of your work at the end of the term. The grade on a late assignment may be lowered. You will be graded on:

- 1) Attendance and participation (20%)
- 2) Micro teaching and mini research presentations (50%)
- 4) Online reactive writing (16%)
- 5) Final reflection (14%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【Changes following student comments】

Message to the course participants:

This is a relatively new course that requires you to share your ideas, knowledge, and experiences. You will meet interesting peers from various cultures and learn from working with them as well as the instructor.

This course is conducted in English. Students must be competent speakers of English (native or proficient with TOEFL® iBT 81+ or equivalent). If your scores are TOEFL® iBT 81 - 100, you can take this course but be ready to make a little more thorough preparation each week.

I expect international and Japanese students of all majors to work collaboratively despite their different cultural and linguistic backgrounds. Come with an open mind and learn from each other!

[Equipment student needs to prepare]

Become familiar with the course website to download readings and post your work. You are also expected to check your university email on a daily basis to keep up with course announcements.

[Others]

Depending on the pandemic situation and your preferences, the course delivery method may change. Please check announcements on Hoppii before the start of the course and Google Classroom during the semester.

LIN200LA

Intercultural Communication D

石原 紀子

Term：春学期授業/Spring | Credit(s)：2 | Day/Period：木 3/Thu.3 | Campus：市ヶ谷 | Grade：1～4

Notes：※ Only a certain number of students

その他属性：〈ダ〉

【Outline and objectives】

In this course, we start by discussing how arts facilitate learning, especially of current social issues related to equity, diversity, and social justice in the globalized world today. You are invited to become part of this learning community sharing your cultural and social knowledge and experience while learning from others of all majors enrolled in this course. You will experience various forms of art incorporated into social activism calling for social and ecological justice. Through this experience, you will understand social, cultural, political, and historical backgrounds associated with the given activism. Your learning will be facilitated through the modeling by the instructor as well as through peer teaching. We will also collaboratively research, discuss, and learn about non-violent peace activists from various cultures and ethnic groups in the world. This will provide you with an opportunity to consider a method and option of acting and relating to others with respect, empathy, and compassion within and across cultural borders.

【Goal】

In this course, you will: 1) understand and appreciate artistic expressions of equity and cultural diversity, 2) understand social activism behind artistic expressions, and 3) participate in an arts-based approach to social justice issues. You will also reflect on your own reactions to issues of equity and diversity and consider how this learning may influence your values, identities, and worldview in relation to your major field of study.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

Before class you are required to work on some reading assignments. In class we study new material, complete relevant tasks in pairs or small groups, and share your discussion with the class. You are encouraged to actively participate in group work and problem-based learning (PBL). Feedback will be given orally in interaction throughout the course. Written feedback will also be provided for your writing and oral presentations within a week of your assignment submission.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course information, getting to know each other
2	Learning language from/with art	Learning about social activism from poetry, Marshall Rosenberg
3	Poetry - 1, social activism	Developing multicultural identities through poetry, Mother Teresa
4	Poetry - 2, social activism	Appreciating poetry writing, Mahatoma & Katurabai Gandhi
5	Film, social activism	Film for art and social justice, Nelson Mandela

6	Stories/Story-telling, social activism	Narratives for equity and diversity, Mairead Corrigan McGuire & Betty Williams
7	Artistic creativity in peace linguistics, social activism	Language and peace, H. H. The Dalai Lama
8	Music - 1, social activism	Social activism through music, social activist (TBA)
9	Music - 2, social activism	Social activism through music, Peter Benenson
10	Children's literature,	Art and social justice in picture books, Sister Chan Khong
11	Folk tales	Peace education via kamishibai theater, Cesar Chavez
12	Novels	Social/ecological justice through literature, Meena Keshwar Kamal
13	Speeches	Equity and diversity expressed in a speech, social activist (TBA)
14	Wrap-up	Reflection and your artistic expression

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You should complete assigned reading and/or homework ahead of time and come to class ready for discussion. Review your lesson after class and complete reflective writing when assigned.

For your presentations, develop a peer teaching session on artistic expressions of diversity or equity issues (micro teaching) and creative multi-media talk on a social activist of your choice (mini-research presentation). Prepare a presentation and discussion appealing and engaging for your peers and rehearse it to be effective.

University guidelines suggest the preparation and review time of around two hours a week for a two-credit course like this one.

【Textbooks】

Censor, Meera. (2011). Humanitarians for justice, nonviolence, and peace. San Bernadino, California.

【References】

Other readings will be distributed through the course website, Google Classroom. Handouts and resources related to the course content are to be provided in class or made available in Google Classroom as well.

【Grading criteria】

You will receive a formal assessment of your work at the end of the term. The grade on a late assignment may be lowered. You will be graded on:

- 1) Attendance and participation (20%)
- 2) Micro teaching and mini research presentations (50%)
- 4) Online reactive writing (16%)
- 5) Final reflection (14%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【Changes following student comments】

Message to the course participants:

This is a relatively new course that requires you to share your ideas, knowledge, and experiences. You will meet interesting peers from various cultures and learn from working with them as well as the instructor.

This course is conducted in English. Students must be competent speakers of English (native or proficient with TOEFL® iBT 81+ or equivalent). If your scores are TOEFL® iBT 81 - 100, you can take this course but be ready to make a little more thorough preparation each week.

I expect international and Japanese students of all majors to work collaboratively despite their different cultural and linguistic backgrounds. Come with an open mind and learn from each other!

[Equipment student needs to prepare]

Become familiar with the course website to download readings and post your work. You are also expected to check your university email on a daily basis to keep up with course announcements.

[Others]

Depending on the pandemic situation and your preferences, the course delivery method may change. Please check announcements on Hoppii before the start of the course and Google Classroom during the semester.

LIN200LA

Intercultural Communication D 2016 年度以前入学者

サブタイトル：Arts-Based Learning of Culture, Diversity, and Social Activism

石原 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, we start by discussing how arts facilitate learning, especially of current social issues related to equity, diversity, and social justice in the globalized world today. You are invited to become part of this learning community sharing your cultural and social knowledge and experience while learning from others of all majors enrolled in this course. You will experience various forms of art incorporated into social activism calling for social and ecological justice. Through this experience, you will understand social, cultural, political, and historical backgrounds associated with the given activism. Your learning will be facilitated through the modeling by the instructor as well as through peer teaching. We will also collaboratively research, discuss, and learn about non-violent peace activists from various cultures and ethnic groups in the world. This will provide you with an opportunity to consider a method and option of acting and relating to others with respect, empathy, and compassion within and across cultural borders.

【到達目標】

In this course, you will: 1) understand and appreciate artistic expressions of equity and cultural diversity, 2) understand social activism behind artistic expressions, and 3) participate in an arts-based approach to social justice issues. You will also reflect on your own reactions to issues of equity and diversity and consider how this learning may influence your values, identities, and worldview in relation to your major field of study.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Before class you are required to work on some reading assignments. In class we study new material, complete relevant tasks in pairs or small groups, and share your discussion with the class. You are encouraged to actively participate in group work and problem-based learning (PBL). Feedback will be given orally in interaction throughout the course. Written feedback will also be provided for your writing and oral presentations within a week of your assignment submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, getting to know each other
2	Learning language from/with art	Learning about social activism from poetry, Marshall Rosenberg

3	Poetry - 1, social activism	Developing multicultural identities through poetry, Mother Teresa
4	Poetry - 2, social activism	Appreciating poetry writing, Mahatma & Katurabai Gandhi
5	Film, social activism	Film for art and social justice, Nelson Mandela
6	Stories/Story-telling, social activism	Narratives for equity and diversity, Mairead Corrigan McGuire & Betty Williams
7	Artistic creativity in peace linguistics, social activism	Language and peace, H. H. The Dalai Lama
8	Music - 1, social activism	Social activism through music, social activist (TBA)
9	Music - 2, social activism	Social activism through music, Peter Benenson
10	Children's literature,	Art and social justice in picture books, Sister Chan Khong
11	Folk tales	Peace education via kamishibai theater, Cesar Chavez
12	Novels	Social/ecological justice through literature, Meena Keshwar Kamal
13	Speeches	Equity and diversity expressed in a speech, social activist (TBA)
14	Wrap-up	Reflection and your artistic expression

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You should complete assigned reading and/or homework ahead of time and come to class ready for discussion. Review your lesson after class and complete reflective writing when assigned.

For your presentations, develop a peer teaching session on artistic expressions of diversity or equity issues (micro teaching) and creative multi-media talk on a social activist of your choice (mini-research presentation). Prepare a presentation and discussion appealing and engaging for your peers and rehearse it to be effective.

University guidelines suggest the preparation and review time of around two hours a week for a two-credit course like this one.

【テキスト（教科書）】

Censor, Meera. (2011). Humanitarians for justice, nonviolence, and peace. San Bernadino, California.

【参考書】

Other readings will be distributed through the course website, Google Classroom. Handouts and resources related to the course content are to be provided in class or made available in Google Classroom as well.

【成績評価の方法と基準】

You will receive a formal assessment of your work at the end of the term. The grade on a late assignment may be lowered. You will be graded on:

- 1) Attendance and participation (20%)
- 2) Micro teaching and mini research presentations (50%)
- 4) Online reactive writing (16%)
- 5) Final reflection (14%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Message to the course participants:

This is a relatively new course that requires you to share your ideas, knowledge, and experiences. You will meet interesting peers from various cultures and learn from working with them as well as the instructor.

This course is conducted in English. Students must be competent speakers of English (native or proficient with TOEFL® iBT 81+ or equivalent). If your scores are TOEFL® iBT 81 - 100, you can take this course but be ready to make a little more thorough preparation each week.

I expect international and Japanese students of all majors to work collaboratively despite their different cultural and linguistic backgrounds. Come with an open mind and learn from each other!

【学生が準備すべき機器他】

Become familiar with the course website to download readings and post your work. You are also expected to check your university email on a daily basis to keep up with course announcements.

【その他の重要事項】

Depending on the pandemic situation and your preferences, the course delivery method may change. Please check announcements on Hoppii before the start of the course and Google Classroom during the semester.

SOW300JB

国際協力論

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：旧「国際支援論」、旧々「国際福祉論」修得者は不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等での都度行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する学び②
第 4 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び①
第 5 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する学び②
第 6 回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第 7 回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第 8 回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第 9 回	国際協力と人材	国際協力に必要な人材と職種
第 10 回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第 11 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第 13 回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特に指定なし。

【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出(平常点)：50%、課題提出(発表含む)：50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器(パソコン、スマートフォン等含む)

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】**【Course Outline】** With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.**【Learning Objectives】** By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on international cooperation in the context of social policy and administration.**【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.**【Grading Criteria /Policy】** Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

SOW300JB

Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈グ〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

[Outline (in English)]

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】

This course aims at learning practical and applicable knowledge and skills on the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settings (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settings (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト (教科書)】

Handouts

【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>

World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction papers through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

SOW300JB

Community Based Inclusive Development

【Outline (in English)】

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：多摩
 毎年・隔年： | 科目主催学部：現代福祉 Social Policy and Administration
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈S〉〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】

This course aims at learning practical and applicable knowledge and skills on the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settings (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settings (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>
 World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction papers through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

SOW300JB

Disability and Development in Asia

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈グ〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

【到達目標】

Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be obtained based on inputs from their local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト (教科書)】

Handouts

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>

States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction paper through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline (in English)】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

SOW300JC

Disability and Development in Asia

開講時期： | 単位数：2 単位
 曜日・時限： | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：現代福祉 Social Policy and Administration
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈S〉〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

【到達目標】

Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be obtained based on inputs from their local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>
 States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction paper through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

HIS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

在日朝鮮人の歴史を学ぶ：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、国籍は日本だが朝鮮半島をルーツに持つ人々が多数住んでおり、日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第 1 章：地域史 (大阪市鶴橋・猪飼野) 最大のコリアンタウン	学生によるテキストの報告、映像
4	第 1 章：地域史 (京都市東九条、神戸市長田) 一緒に生きる町づくり、震災を乗り越えた町	学生によるテキストの報告、映像
5	映像視聴	映像と討論
6	第 1 章：地域史 (下関、岸和田、広島、柳本) 歴史が刻まれた風景	学生によるテキストの報告、映像
7	第 2 章：個人史 (君が代の記憶、被爆と民族差別)	学生によるテキストの報告、映像
8	資料館見学	資料館見学
9	第 2 章：個人史 (二つの国にまたがって生きて)	学生によるテキストの報告、映像

10	第 2 章：個人史 (日本籍在日コリアン二世)	学生によるテキストの報告、映像
11	映像視聴	映像と討論
12	第 2 章：個人史 (民族教育を守り続けて)	学生によるテキストの報告、映像
13	第 3 章：家族史 (写真から学ぶファミリーヒストリー)	学生によるテキストの報告、映像
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

在日コリアン青年連合編著『在日コリアンの歴史を歩く』(彩流社) 2100 円 + 税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かしてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50 %.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日朝鮮人の歴史を学ぶ：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、国籍は日本だが朝鮮半島をルーツに持つ人々が多数住み、日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポートの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説①	世界のコリアンと在日コリアン
3	在日コリアン概説②	在日コリアンの法的地位
4	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの人口はどれくらいですか」
5	学生によるテキストの報告	「在日コリアンはいつ頃日本に来たのですか」
6	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの国籍はどうなっていますか」
7	まとめ①	映像 (1)
8	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの民族教育はどのように広がっていったのですか」
9	学生によるテキストの報告	「北朝鮮への帰国運動とはどういうものですか」
10	学生によるテキストの報告	「本名を名乗るとはどういうことですか」
11	まとめ②	映像 (2)
12	学生によるテキストの報告	「国民健康保険、国民年金には入れますか」
13	学生によるテキストの報告	「帰化をしないのはどうしてですか」
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

梁泰昊『新・在日韓国・朝鮮人読本』（緑風出版）2000 円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講された教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史 A」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution:50 %.

GDR300LA

クィア・スタディーズ A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (100 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈タ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動と LGBTQ 運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第 2 回	クィア・スタディーズとは何か?	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第 3 回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第 4 回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo 運動	90 年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第 5 回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	LGBTQ 運動の歴史を振り返る。
第 6 回	日本における LGBTQ 運動	「府中青年の家」裁判について講義する。
第 7 回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第 8 回	ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。
第 9 回	インターセクショナルティ	インターセクショナルティとトランスジェンダー問題について考える。

第 10 回	カミングアウトとアウトティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウトティングについて考える。
第 11 回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第 12 回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第 13 回	クィアな空間	クィア映画祭について考える。映画『Queer Japan』について考える。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読む、授業内で示される課題 (リアクション・ペーパー、レポート) 対応など、準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

- 岩淵功一 (編) 『多様性との対話—ダイバーシティ推進が見えなくするもの』 (青弓社年、2021 年)
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子 (編) 『クィア・スタディーズをひらく 1』 (晃洋書房、2019 年)
 清水晶子 『フェミニズムってなんですか?』 (文春新書、2022 年)
 新ヶ江章友 『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ (クィア・スタディーズ) のために』 (花伝社、2022 年)
 森山至貴 『LGBT を読みとく—クィア・スタディーズ入門—』 (ちくま新書、2017 年)
 トッド・マッシュュー 『ヴィジュアル版 LGBTQ 運動の歴史』 (原書房、2022 年)

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 20%

中間レポート 35% (800-1,200 文字程度)

学期末レポート 45% (2,000 文字程度)

2 つの小レポートの提出が必要です。レポートでは、社会的・歴史的な要素を踏まえた上で、具体的事例を挙げてジェンダー・セクシュアリティの問題について論じる。

毎回出欠を取ります。4 回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15 分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やす必要があることに気づいた。授業の資料をよりわかりやすくするように工夫すべきことに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Have basic knowledge of queer studies.
- b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and comment sheet: 20%

Mid-term essay (800-1200 characters): 35%

Final essay (1000-1500 characters): 45%

LIN300LA

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1・2回目は講義と教室内活動中心。
- ・第3～13回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第2回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	コミュニケーション・スタイル① コンテキスト	・無言の共通理解を前提にコミュニケーションを行う高コンテキスト文化と、言語的に明確にされた情報のみを基本とする低コンテキストコミュニケーション文化について、その世界観や認知的な差異を含めて論ずる。 (学生発表と質疑応答。以下13回まで)

第4回	コミュニケーション・スタイル② ターンテ-キングとパラ言語	会話場面において、発話のターンを取る（＝ターンテキング）における文化差や特徴について。 ・イントネーション、リズム、ポーズ、声質など、言語情報のうちの周辺的な情報であるパラ言語（周辺言語/準言語）について、基本的知識と文化的な特徴を扱う
第5回	言語コミュニケーション① 褒め方・叱り方・謝り方	文化によって異なる「ほめ方・しかり方・謝り方」を例に、その根本にあるポライトネスについての知識を深める。ポライトネス理論の基本的な概念を概観し、文化によってどのような才や特徴があるかを観察する。
第6回	言語コミュニケーション② 誘い方と断り方	第5回に引き続き、ポライトネス理論の立場から「誘い方と断り方」という言語行為を観察し、そこに現れる文化的な特徴について考える。
第7回	言語コミュニケーション③ 自己紹介と自己開示	・文化によって異なる「自己紹介」の仕方、そこで好まれる話題や態度などを取り上げる。また、自己紹介場面に限らず行われる「自己開示」の深さ、広さなどがコミュニケーションや対人関係にどのような影響力を持つかを考え、さらにそこに表れる文化的特徴についても考える。
第8回	非言語コミュニケーション① 表情・アイコンタクト	・人類共通の本能的、基本的な表情分析と、文化に依存する表情表現について扱う。また、視線によるコミュニケーション、いわゆるアイコンタクトについて、文化による差異を考える。
第9回	非言語コミュニケーション② しぐさとジェスチャー・タッチング	異なる文化圏で見られる様々なしぐさやジェスチャーについて、危険な物、あるいはコミュニケーションを円滑にするものとしての具体例を見ながら検討する。また、タッチングについても、文化圏や性別、年齢、人間関係によってどのように変化するかを考える。
第10回	非言語コミュニケーション③ 空間と対人距離	・ソーシャル・ディスタンスやパーソナルスペースなど、空間の扱いに見られる文化差を扱う。また実際に対人距離がコミュニケーションに与える影響について考える。
第11回	非言語コミュニケーション④ 時間感覚	・地域、時代、個人によって異なる時間感覚、また同じ個人でも場面によって時間の取り扱い方について具体的な例を見つづ、E. ホールのモノクロニック・タイム、ポリクロニックタイムの概念を確認する。
第12回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第13回	異文化コミュニケーション・スキル	・異文化コミュニケーションのためのテクニックやメソッド
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
 池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
 八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
 吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
 E. ホール 『沈黙のことば－文化・行動・思考』南雲堂
 その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 15 %
 リアクションペーパー 15 %
 発表 30 %
 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

・グループワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
 ・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
 ・最新情報を Hoppii で確認すること。 また、法政のメールアカウントをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

ARSk300LA

比較文化A

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制（30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 異文化・自文化理解力を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	比較文化の方法と概念（1）	「ハイカルチャー」に対して「生活世界 Lebenswelt」としての文化とは？
③	比較文化の方法と概念（2）	ステレオタイプに対して集団主義 vs 個人主義など有意義な「文化的次元 Cultural Dimensions」とは？
④	テレビの料理番組の比較（1）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑤	テレビの料理番組の比較（2）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑥	テレビの料理番組の比較（3）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑦	映画の比較（1）	（フードフィルムを含む）映画の分析を学ぶ。
⑧	映画の比較（2）	（フードフィルムを含む）映画の分析を学ぶ。
⑨	映画の比較（3）	（フードフィルムを含む）映画の分析を学ぶ。
⑩	映画の比較（4）	（フードフィルムを含む）映画の分析を学ぶ。
⑪	Web の料理チャンネルの比較（1）	Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。

- | | | |
|---|--------------------|---|
| ⑫ | Web の料理チャンネルの比較（2） | Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。 |
| ⑬ | Web の料理チャンネルの比較（3） | Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。 |
| ⑭ | まとめ、課題もしくは試験 | 春学期に学んだ内容を確認する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のために Hoppii 学習支援システムに UP された作品全体を観て比較する必要があります。

【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。】

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：60%

学期末試験（課題）：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

定員は 30 人名程度です。受講希望者多数の場合には、第 1 回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席してください。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

- To deepen understanding of different cultures and own culture.
- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%

Final exam: 40%

